

# ORIENTEERING Japan

Navigation across Country

'96 / 5

1996年 [平成8年] 5月10日発行

(毎月1回10日発行)

第13巻第4号通巻第153号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



# 信州 菅平高原

長野県小県郡真田町



### 地図記号

- 主要道路、軽便線
- 道路
- 小道
- 小径、切り通し
- 林道、小橋 (通行不能、可能)
- 高橋、小橋
- ほこら、記念碑等
- 居住界

- 墓、墓場
- 遺物、ピニールハウス
- 湧水、山、小さな池、湖
- 防犯標、井戸、孤立祠
- 墓地
- 工がけ、岩がけ
- 通行不能の穴
- 専ら線 (折曲線、主曲線)
- 土蔵、みぞ、竈穴
- 小池、凹地、穴
- こぶ、大、小、岩群、岩

- スキーリフト
- 民家の敷地
- 通行可能
- 通行困難
- 立入禁止の閉じた土地 (耕作地等)
- 立入可能な閉じた土地 (ランド、スキー場、牧場)
- 伐採地、森林地
- 半ば閉じた土地

- wc 公衆トイレ
- P 駐車場

この地図は、オリエンテeringに使用するため、真田町発行の「真田町案内」を基盤として作成し、修正したものである。  
 調査期間：平成の毎月～平成7年3月、調査したものである。  
 調査者：大平 功、高川 秀向、元木 寿、山川 文朗  
 調査日：山1、山16、山16  
 協力：長野県地誌研究会  
 製 図：P、M、G、O、U、C、S / 印 刷：成瀬堂



[本誌掲載のため約65%に縮小]



＝ ALL JAPAN ＝	
・ 第22回全日本大会（中編） 大会成績上位 入賞選手のコメント＝鹿島田浩二、松澤 俊行、山内 祐子 全日本大会のコースセット	編集・桐田 幸宏 … 4-10 OLC 才・愛場 庸雅
＝ UNIVERSIADE & JWOC ＝ … 11	
・ ユニバーシアード & JWOC 日本代表選手決定	
＝ INTERCOLLEGIATE ＝ … 12-15	
・ インカレ95外伝 女子はもっと強くなれるはず？ 競女子チームオフィシャル・桐田 幸宏	
・ 新潟大学 4人分のTシャツとハチマキと	
・ 奈良女子大学 静岡インカレを乗り越えて	
＝ O-FORUM ＝ … 16-17	
・ 公認大会のクラス分けについて	競OLクラブ・広江淳良
＝ ORIENTEERING CALENDAR ＝ … 18-19	
・ オリエンテーリング・カレンダー	
・ トレーニング・カレンダー	
＝ お知らせのページ ＝ … 20	
・ 公認大会のクラス分けについて（続き）	
・ 編集部日誌	

■今月の表紙：身体的障害を克服して頑張る二瓶 禮治氏。  
8年前の昭和63年1月に脳出血で倒れられたが、その後お体の麻痺にもかかわらずオリエンテーリングを続けられる。気力とりハビリの努力で、少しずつながらよくなっている、とおっしゃる。昭和63年は、O-JAPANが当時のJOLCから離れ、サイズも大きく変えたり、また第三種郵便扱いにもなり、大きなステップを踏んだ年であったが、その後の編集部には同氏のオリエンテーリングへの執念、ご努力には頭が下がる思いである。

【撮影：編集部】

■今月の地図：「レジャーランド」？の建設計画などで、危うくなってきた「富士南麓」に変わって、特にスキーOなどで今後の注目を集めそうな長野県。その中のひとつ「菅平高原」のパーマナントコース・マップ。

【提供：元木 悟氏】

### < EDITOR'S COLUMN >

新年度に入って早2か月。本職の勤務先の状況は相変わらずですが、加えて地域の仕事の量は想像以上のものがあります。最近朝のジョギングも皆無。人間なみに風邪をひくことも多くなりました。これではいけないと、用事があればなるべく自治会の役員さんのお宅まで伺います。配布物を印刷したり、組長さんのところへ配ったりもします。防犯灯がみんな傷んでいると聞いては、得意の地図を片手に域内を歩き回ります。端から端まで直線でも1km以上、全部の道路をクネクネと踏破すると、測ったことはありませんが、恐らく4～5kmにはなるのでしょうか。そのうち、いろいろな設備を記号化した独特の詳細地図を描いてみようと思っています。ストリート・オリエンテーリングも考えています。周辺には多少の緑が残っていたのですが、昨年、今年と地域経済もやや持ち直してきたのでしょうか、ミニ開発が始まると聞いては見に行きます。建設業者の説明を聞いたり折衝したりします。家の建て直しも結構多く、自治会の中に建築協定委員会がありますから、新しい建築基準法の勉強もします。交通量の激しい抜け道がこの住宅地内を横切り、道路交通問題も大変です。「いじめ」は全国的な問題となっていますが、加えて首都圏では

「薬物」の売買や使用、「ひったくり」などの犯罪が低年齢化しています。車に対する「いたずら」「空き巣」「痴漢」の報告も役員会で出てきます。教育問題もあります。大きいとはいえ、一つの自治会が二つの中学校区に線引きされていたりすると、少子化した現在では子供たちにとって結構深刻な問題となります。「防災」と「地方自治」とは切り離せないものであることは、昨年目のあたりにしました。防災訓練や用具の取り揃えのことなど役員間でよく話し合われます。そして、私の得意とするスポーツ・レク行いや文化活動。早速6月には「史跡めぐり」があったり、「夏祭り」の準備が始まったりします。とにかく、650世帯2000人ほどの小さな村の村長さんみたいなもの。大変ですが、やりがいにはOLの比ではありません。そして何より言いたいのは、行政の指導もあるのですが、組織がかなりしっかりしていることです。私はそれに乗っかって動かされているだけです。組・班組織、各部、担当制の副会長が4人もいて助けてくれます。

まあ、JOAもしっかりした機構・組織を作って、みんなで考え、協力しながら運営してください。特に「広報」面はどうなっているのでしょうか。期待していますよ。

< 編集責任者・田口 肇 >

# 第22回全日本大会 (中編)

日時：平成8年3月24日

場所：奈良県菟田野町・大宇陀町

主催：(社)日本オリエンテーリング協会

主管：大阪府オリエンテーリング委員会・奈良県オリエンテーリング協会

編集／桐田幸宏

先月号に引き続いて、95年度全日本大会の記事をお届けする。今回は上位入賞者のコメントのほか、コースセッターを務められた愛場氏よりの投稿記事を一挙掲載。成績については、Aクラスを中心に上位のみ掲載した。(エリートと21A・20Aについては先月号に引き続いて再掲載)。

M45A・粟野義明は3連覇を、M50A・鈴木栄一、M60A・高橋厚は2連覇を遂げている。高橋氏は4度目の優勝でもある。

W45A・鈴木節子は昨年度D40Aの2位。クラスが上がり、45A昨年の覇者・海野とみ子を抑えて優勝した。クラスの統合されたW60-65では、昨年までD60で3連覇を遂げていた三好良子の連覇が跡絶えた。W18A・W16Aでは、古澤ファミリー(つるまいOLC)のお嬢ちゃんたちが優勝を果たしている。



M21E表彰式。左から、鹿島田選手・村越選手・鈴木選手。

## 大会成績上位

M21E		13400m ↑630m
1	村越真	静岡OLC 92:53
2	鹿島田浩二	東京OLC 95:49
3	鈴木卓弥	横浜OLC 101:16
4	松澤俊行	京葉OLC 103:06
5	利光良平	東村山市 103:21
6	平井均	静岡OLC 106:23

W21E		8200m ↑400m
1	木植早生	茨城小中教員C 72:58
2	富士淑子	東京HRC 78:32
3	田島利佳	みちの会 81:52
4	三好暢子	上尾OLC 83:02
5	原志保子	静岡大OLC 85:05
6	山本康世	東大OLK 86:09

M20E		
1	山口大助	千葉大OLC 72:17
2	吉村充功	広島大OLC 74:07
3	白土英治	東北大OLC 76:31
4	土屋周史	京都大OLC 81:42
5	美濃部篤	筑波大OL愛好会 82:42
6	田濃邦彦	静岡大OLC 83:13

W20E		6800m ↑270m
1	山内祐子	日本女子大OC 67:41
2	田中邦子	京都女子大OLC 71:07
3	佐々木峰子	筑波大OL愛好会 75:05
4	梅まゆみ	広島大OLC 75:17
5	本杉美記野	静岡県短OLC 76:04
6	堀井亜紀	筑波大OL愛好会 76:57

M21A1		
1	柳瀬陽一	京大OLC 82:23
2	石澤俊崇	早大OC 85:21
3	笹田啓一郎	OLP兵庫 85:24
4	宇野裕人	サンスーシ 85:40
5	安田忠寛	中京大学 85:45
6	吉村年史	広島OLC 87:42

M21A2		
1	加賀屋博文	東京都港区 76:06
2	藤咲芳春	田端OL系 80:52
3	稲津隆敏	鶴亀倶楽部 86:08
4	井上健太郎	OLP兵庫 87:13
5	山形公次	金沢大OLC 88:07
6	森泰祐	山口大OLC 89:48

W21A		
1	中村正子	筑波大OL愛 58:39
2	加納尚子	TeamZebra 61:46
3	石川恵美子	つくばROC 64:26
4	清水容子	入間市OLC 64:38
5	竹内亜希子	多摩OL 66:58
6	志村聡子	横浜OLC 67:53

M20A		
1	平井太郎	京大OLC
2	壁谷真人	大阪大OLC 75:08
3	盛田保文	京大OLC 75:51
4	大岡克行	広島大OLC 77:57
5	森下健一	新潟大OC 78:23
6	吉村康宏	立命館OLA 78:41
		78:45

W20A		
1	丹羽美智子	東北大OLC 50:51
2	佐藤渚	京都橘女OLC 51:08
3	渡辺裕子	信州大OLC 53:27
4	亀山以知子	お茶大OLK 58:21
5	吉田奈津子	茨城大OLD 58:33
6	山崎友香里	奈良女OLC 59:26

### cf.公認大会エリート出場資格規定

#### 【公認大会(全日本大会を除く)】

M(W) 21E	
(1) 前年度全日本大会	M(W) 21E 有資格者
(2) 前年度公認大会	M(W) 21A 5位以内
(3) 前年度全日本大会	M(W) 21A 10位以内
(4) 前年度全日本大会	M(W) 20E 5位以内

#### 【全日本大会】

M(W) 21E	
(1) 前年度全日本大会	M(W) 21E 10位(5位)以内
(2) 本年度公認大会	M(W) 21E 20位(10位)以内
(3) 本年度東・西日本大会	M(W) 21A 1位
M(W) 20E	
(1) 本年度公認大会	M(W) 21E有資格者で20歳以下のもの
(2) 本年度公認大会	M(W) 20A 10位以内
(3) 本年度東・西日本大会	M(W) 18A 1位

## \*\*\* 入賞選手のコメント \*\*\*

## 鹿島田浩二

村越さん、16度目の優勝おめでとうございます。

35歳という年齢にもかかわらず、常に日本のトップであり続ける村越さんには、月並みな言葉ながら本当に敬服してまいります。

WOC95では35歳のヨルゲン・モルテンソンが大活躍、オーストラリアでも36歳のウォーレン・キーがチャンピオンシップをとるなど、世界にはまだまだ強者のライバルが沢山いらっしゃいます。彼等より一回でも多くのWOCに出場し、決勝を走って日本の若くて言いオリエンティアの見本を示してください。

来年の全日本を楽しみにしています。

## 松澤俊行

「・・・今年は勝てる気がしない。明らかに実力で大きな差がある。・・・全くチャンスがないとはいっていない。・・・わずかでもついている隙があればただちに追い付ける位置で構え続ける。・・・目標はあくまでも優勝である。」

昨年、O-JAPAN誌にある選手が寄せたその年の全日本大会に向けての抱負である。読んで何となくは理解できたものの前半と後半の記述の間に矛盾も感じていた。そんな私も一年後、ほぼ完全にこの選手の当時の心境を理解して全日本に臨んだ。

結果、4位。やはり実力通りに落ち着くものである。故に、競技生活の中の何度目かの区切りを感じ、今後の課題を明確に認識している自分がいる。喜ばしい限りである。

一年後、今以下の実力で全日本を走っていることは、あまり想像できない。

## 山内祐子

スタートに行くとき、とてもきれいな所だと感激して良い気分スタートができた。コースは全体的にやさし目に感じたのでアタックを慎重にやる以外はとにかく走った。長い道走りも、景色がきれいで空気がおいしかったので、あまり苦にならなかった。久しぶりに気持ちよくレースができ、結果もついてきたので非常に嬉しいです。せっかくE権をとれたので来年もがんばりたい。

運営の皆様ありがとうございました。



W21E表彰式。木植選手（左）と田島選手（右）

<b>M21AS</b>	<b>M60A</b>	<b>W35-40A</b>
1 大島健一 峰浪の会 60:12	1 高橋厚 多摩OL 48:40	1 小野寺はるみ 札幌市 77:12
2 竹下俊輔 OLCルーパー 60:28	2 笠井泰自 奈良OLC 51:48	2 石丸尚子 鈴鹿ファミリー 83:30
3 森岡裕起 大阪府大阪市 62:50	3 木植保雄 水戸OLC 52:16	3 吉岡康子 OLC吉備路 95:59
<b>M35A</b>	<b>M65</b>	<b>W45A</b>
1 A.Birkedal OLCルーパー 69:40	1 江坂純義 広島OLC 39:31	1 鈴木節子 つるまいOLC 65:08
2 宇野浩一 多摩OL 74:32	2 高橋滋 上越市OLC 39:55	2 海野とみ子 川越OLC 66:12
3 阿部倉智 サンスーシ 75:53	3 吉田紀光 愛知OLC 42:01	3 若梅節子 横浜OLC 71:10
<b>M40A</b>	<b>M70</b>	<b>W50A</b>
1 伊藤哲夫 松阪OLC 66:12	1 大蔵誠 東京都葛飾区 41:29	1 若松リツ子 名古屋市 64:21
2 桑山実 三河OLC 68:47	2 今留康雄 北九州OLC 42:21	2 芝聖子 OLP兵庫 71:48
3 山本逸夫 湖西OL同好会 73:21	3 財間定義 島根OC 45:02	3 加藤伶子 東京OLC 74:19
<b>M45A</b>	<b>M18A</b>	<b>W55</b>
1 栗野義明 愛知OLC 54:23	1 中島篤 箕面高校OL愛 58:37	1 池田富子 大阪OLC 50:01
2 高野政雄 多摩OL 56:24	2 宇田川雅令 麻布学園OLK 62:21	2 渡辺千津子 つるまいOLC 53:10
3 橘直隆 つくばROC 56:55	3 小松弘武 桐朋学園IK 63:10	3 タイヤウ 東京OLC 57:13
<b>M50A</b>	<b>M16A</b>	<b>W60-65</b>
1 鈴木英一 ワンダラーズ 52:39	1 成川研介 ナルケンス 46:10	1 井上直子 北九州OLC 44:17
2 河村健二 つくばROC 55:56	2 藤瀬和隆 桐朋学園IK 49:44	2 石田美代子 愛知OLC 45:58
3 田島三郎 入間市OLC 56:05	3 玉置俊光 ナルケンス 54:25	3 三好良子 港南OLC 53:18
<b>M55A</b>	<b>W21AS</b>	<b>W18A</b>
1 タイヤウ 東京OLC 50:39	1 下江範子 広島OLC 69:14	1 古澤裕子 つるまいOLC 61:47
2 尾上俊雄 OLP兵庫 52:37	2 小平晃子 水篋刈 71:13	2 桜井由紀奈 藤枝西高OLC 90:48
3 高田和彦 富士フィルムOLC 56:41	3 中野宏美 浜松OLC 70:20	3 提坂亜季子 藤枝西高OLC 96:47
		<b>W16A</b>
		1 古澤千絵 つるまいOLC 95:41

## 全日本大会のコースセット OLCレオ 愛場庸雅

はじめに

あるビッグ大会の帰り、私は割と良い成績を修めて帰途についたにもかかわらず、いま一つ満足していなかった。前評判の高い、良いトレインであったのだが、そんなに面白くなかった。他のクラスで見られたようなコントロール位置の問題や、コース距離の問題は私のクラスには無かったのだが、納得できないものが残っていた。帰りの電車の中で全コース図を見た後、私は白地図をにらみながら、「ここはこういうレグを組んで、ここはこうまわして…」と考えをめぐらせはじめていた。

大会のコースについて、参加者の側からコースの良し悪しやルートチョイスの可能性などについて語られる事は多いが、コースをセットした側からその意図や理由が明らかにされる事はあまりない。コースセットの原則、理論は一応教科書的に決まっているものではあるが、いざ実際の設定になると、現状はコースセッターの経験がたよりであることが多く、「どうすれば適切な良いコースが組めるのか」ということはかなり難しい。そもそも「良いコース」についての概念そのものが、オリエンティア一人一人で異なっているであろう。「どんなコースでも公正でさえあれば、結局ランナーは実力に相当する結果を残す」のはおそらく事実であろうが、これではより良い、より面白いコースはできない。そこで今回全日本大会のコースセッターをさせていただいたので、この機会にコースセットの実情を、参考にした資料とともに公開してみることになりました。是非ご批判、ご意見を頂戴したいと思います。また走られたランナーの皆さんのレースアナリシスや、次にコースを組まれる時お役に立てば幸いです。

### コースセットの原則

まず今回のコースセットにあたって、IOF発行の「Principles for course planning」(1993, IOF)と、「Journal of Orienteer No.5 特集:コースプランニング」(1984, JOグループ)を読み、参考にさせていただいた。前者には、コースプランナーの心すべきゴールデンルールとして、次の5点が挙げられている。

1. 走りながらの方向決定というオリエンテーリングの特性
2. 競技の公正さ
3. 競技者が楽しめること
4. 野性動植物、自然環境への配慮
5. 観客、報道機関の要求

このうちの、1と2については当然の、良く知られていることなので、いまさら解説するまでもないであろう。(いくつかの問題点については、後で述べる。)3については、よく年配の方から「年寄り向けのコースで、手を抜かれた。つまらなかった。」という声を耳にする。またある試走者からは、「年寄りには道を走るだけではつまらない。できるだけ林の中を通してもらうのがオリエンテーリングらしい」という意見も聞かれた。これから高齢者クラスに参加して行く予定のもの一人としても、「このクラス(ベテランのAクラス)の参加者には、絶対に「参加して良かった」と言わせてやる」という意気込みで臨んだ。もちろん若者に向けても、初心者に向けても、目標は同じである。

4については、それに加えて社会的配慮すなわち地元の住民の方々、土地所有者の方々に迷惑をかけない事が重要である。むしろこれに多く気がつかないと言ってよいだろう。競技者が耕作地に入らないように、森林資源特に幼木に損傷を与えないように、民家の敷地の中を通る事がないように、墓地の中も道でなければ通らないようにする。(最後の点に関しては、今まであまり言われてなかったように思うが、もし損傷を与えた場合に、金銭的に解決できるようなものでなく、精神的なダメージを残す可能性が高いので守るべきだろうと思う。ただこれを拡大してゆくと果たして神社の境内を通して良いか?というような問題も生じてくるのだが…)そしてこれらが通常考えるルートチョイスでは決して、もし参加者が少々のミスをおかしても減多に、あってはならないように考慮した。そのためにどれほど多くのレグの可能性が芽を摘まれたことか。それでも地元住民の方からの苦情が実はあった。試走のときにその可能性を指摘されていたにもかかわらず、回避策を怠った私の責任である。

5については、エリートクラスにおいて中間計時を行い、救護用無線の空きを利用して、実況中継を試みた。このためW20Eコースは少し長くなってしまったし、コースプラン上も制約がはいることになった。しかし、IOFは現在マスコミへのアピールということを極めて重用視している。会場にいる観客(選手)を楽しませるとともに、オリエンテーリングがテレビ報道に耐えうるスポーツとするための方策としていろいろな試みがなされている。そのためには多少競技としての面白さを犠牲にしても止むを得ないという考えすらあると聞いている。人手不足のため実況中継は十分でなかったし、公正さを保つためどの時点で速報を公開するかという課題が残るが、全日本の個人戦では初の試みとして問題提起したい。最後に会場脇の道を走るビジュアルゾーンもある程度は意図的に組んだものである。

### ウイニングタイム

おそらく競技規則を遵守してコースプランをすれば、先に述べたような基本原則の特に1と2についてはおおむね適切なコースが組めるはずである。ただその中で最も難しいのが、ウイニングタイムを守る事であろう。恐らく多くのコースセッターが最も悩むのがこの点である。それと関連してどのクラスとどのクラスを同一コースで抱き合わせてよいかというのを決めるのも難しい。過去の大会においてもいろんなパターンがあり、統一の見解はないのが実情である。今回のこの点に関しては、おおむねうまくいったと自負している。これは、昨年度中に開かれた公認大会のクラス毎の成績、距離の膨大なデータとトレインの性質を分析して、参加者の能力評価と予測を行った競技責任者、西田伸一氏の功績である。そのデータのエッセンスをここに公開する。(表1、2、3)

昨年度の公認5大会(大阪、東日本、千葉大、朝日、西日本)の結果から、各クラスのM(W)21E(A)に対する平均的競技速度を求め、それと規定のウイニングタイムから、それぞれの設定すべき距離のM(W)21E(A)に対する評価を導き出した(表1)。この数字はこの後数年は使えるものだろうと思われる。ただ、さすがにM21Eと若年や高齢者のAクラスとの間では、難易度も変えなければならぬので、単純にX%というふうにはいかない。むしろこの数字が役立ったのは、クラスの抱き合わせである。これを数字順に並べ変えると表2のようになる。そこでこれに沿ってコース、クラス配分をおこなった。コース印刷のコストと、運営上の手間の問題からできればコース数は少なくしたい。後で述べるようなクラス別のコース設定のコンセプトが守れる範囲でできるだけ抱き合わせた。W20EとM18Aなどは意外に思われたかもしれないが、手頃な組み合わせである。最終的な組み合わせが表3で、実際の結果を横に示している。この結果は、女子のクラスにおいてはまだ改善の余地がありそうであるが、おおむね満足できる結果だと考えている。M45A(W21A)はもう少し難度を上げて良かったようである。現行のクラス分けが適当かどうかという問題はさておいて、抱き合わせをすれば一部のクラスでどうしてもウイニングタイムをクリアできないのは仕方ないことである。こういうときは原則に戻って、参加者に満足してもらえれば良いと考えよう。Bクラスにおいては要項にはウイニングタイムは記載されているが、規定には存在しない。あとで述べるようにこのクラスにおいて要項に記載されたウイニングタイムというのは長すぎると思われる。

次にトレインの性質による難易度の問題がある。これはデータにたよる事はほとんどできない。たいていの場合試走ではきちんとしたタイムは出ないからである。経験に基づく勘に頼る部分が多くなる。ただ今回は幸運な事に、大阪OLC大会と西日本大会が、似たようなタイプのトレインで開かれたので大変参考になった。M21Eに関しては、松澤選手（大阪OLC大会）と村越選手（西日本大会）の結果に基づき、またこのトレインが西日本のそれよりもタフ（斜面がきつく、林の中の走行速度が落ちる）であることを考えて、優勝者（村越または鹿島田レベルと仮定して）が90~95分で帰ってくるには13~13.5km程度だろうという結論に達した。またW21E以下のクラスでは西田が試走した感触で、「スタートからラジオコントロール（給水所）まで大体30分、どんなに頑張っても25分」という数字を根拠に導き出した。

とはいえ、きちんとしたウイニングタイムが出るという自信は正直言ってなかった。女子のクラスはやや厳しいだろうと予測していたのだが、実際の各クラスの結果を見てほっとしているというのが実情である。村越選手がまさにこちらの期待通りのタイムで誘導路に現われたときは本当にうれしかった。これだけでも大成功である。

## クラス別のコースコンセプト

### 1.Eクラス

チャンピオンを決めるのにふさわしい、トータルなOLの能力を要求するコースを組まなければならない。ただ、このタイプのトレイン（道が多い）では、レッグの組みかたや、コントロール位置などはAクラスのそれと大きくは変わらない。私がこのクラスのランナーに要求したのは精神力である。ただし単にきつければ良いというものではない。チャンピオンとしてふさわしいメンタルな面で差が出るようにしたかった。そのためコントロール位置をあえて薄グリーンの中に置いたり（コントロールを隠すのではない）、薄グリーンの通過や急激な斜面の登りを取り入れたり、正解ルートが見つにくいルートチョイス、スピードを上げにくい読図区間、ラフに道を走った直後のファインな読図が必要な区間、そして終盤には集中力を要求するショートレッグの連続（これは世界選手権など海外の重要な大会でよくみられる。レッグ自体の難度はそれほど高くなくても、疲れたランナーにはストレスとなる。ミスの可能性と戦いながらいかにスピードを上げるか。少しづつだが確実に差のついてゆく区間である。）などの課題を取り入れた。

### 2.Aクラス

若年者と21Aとベテラン向けでコンセプトは異なる。コントローラーから事前によくわかってきたことは、「決して若年者とベテランは同じコースにしないこと。」ということである。コース印刷コスト、運営上の問題から、できれば適当に組み合わせるほうが運営者にとっては楽である。しかしそれは避けなければならないとの事である。では若年者とベテランのコースはどう異なるべきなのだろうか。この点については、競技規則には何も書かれていないし、誰からも明確な回答を得ていない。以下は、私の想像である。ベテランにとっては、OLの楽しみは読図を中心としたその技術力が発揮される点にある。体力的には下を向いて行くので、できるだけテクニックを要求するコースが望ましい。一方若年者にとっては、難しいコースより易しめで体力的にすぐれたものの勝つコースの方が、自信がつけられ、将来の進歩への意欲をそそらせる事ができる。技術のある人には体力トレーニングの動機をつけ、体力のある人には、技術トレーニングを動機づけられるような、挫折感を与えないコースを作る事が必要である。このような考えで、ベテランと若年者のコースに差をつけたつもりである。（余談ではあるが、45~50以上のクラ

表1								表2	
クラス	Win.T (min)	スピード 対M21E %	スピード 対M21A %	スピード 対W21A %	距離評価 対M21E %	距離評価 対M21A %	距離評価 対W21A %	クラス	評価
M21E	90	100			100			M21E	100
M20E	70	90			70			M21A	80
W21E	75	70			60			M20E	70
W20E	60	60			40			W21E	60
M21A	80	90	100		80	100		M35A	58
M35A	70	75	83		58	73		M20A	53
M40A	65	72	80		52	65		M40A	52
M45A	60	72	80		48	60		M45A	48
M50A	55	68	75		42	52		M21AS	48
M55A	50	68	75		38	47		W21A	47
M60A	50	63	70		35	44		M50A	42
M21AS	60	72	80		48	60		M18A	42
M20A	70	68	75		53	66		W20E	40
M18A	60	63	70		42	42		M55A	38
M16A	50	54	60		30	30		M60A	35
W21A	65	65		100	47		100	W35A*	35
W35A*	55							W40A	31
W40A	50	55		85	31		65	M16A	30
W45A	45	52		80	26		55	W21AS	29
W50A	45	49		75	24		52	W45A	26
W21AS	50	52		80	29		62	W20A	26
W20A	60	39		60	26		55	W50A	24
W18A*	50							W18A*	23
W16A*	40							W16A*	20
* : データなし								* : 推定	

コース 番号	試走 コース	クラス	評価	距離 (m)	登距離 (m)	規定 優勝 時間	想定 優勝 時間	実際の優 勝時間
1	E1	M21E	100	13400	630	90	90	92:53
2	E2	M20E	70	9000	440	70	70	72:17
3	EA1	W21E	60	8200	400	75	77	72:58
3	EA1	M35A	58	8200	400	70	72	69:40
4	EA2	W20E	40	6800	270	60	60	67:41
4	EA2	M18A	42	6800	270	60	57	58:37
5	A1.2	M21A1	80	10100	520	80	80	82:23
6	A1.2	M21A2	80	10100	520	80	80	76:06
7	A3.4	M20A	53	7700	340	70	69	75:08
8	A3.4	M40A	52	7600	340	65	62	66:12
9	A5	W21A	47	7100	290	65	69	58:39
9	A5	M45A	48	7100	290	60	60	54:23
10	A5	M21AS	48	7200	300	60	60	60:12
11	A6.7	M50A	42	5900	210	55	53	52:39
11	A6.7	M55A	38	5900	210	50	53	50:39
12	A6.7	W35-40A	31	5200	200	50	49	77:12
12	A6.7	W21AS	29	5200	200	50	52	69:14
13	A8.9	M60A	35	5000	190	50	43	48:40
13	A8.9	W45A	26	5000	190	45	52	65:08
13	A8.9	W50A	24	5000	190	45	55	64:21
14	A8.9	M16A	30	4800	170	50	50	46:10
14	A8.9	W20A	26	4800	170	60	69	50:51
14	A8.9	W18A	23	4800	170	50		61:47
14	A8.9	W16A	20	4800	170	40		95:41
15	B1	M21B	44	6400		60		52:15
16	B2.3	M45B	40	5700		60		43:39
16	B2.3	M40B		5700		60		49:47
16	B2.3	M35B		5700		60		44:10
17	B2.3	M20B	34	5500		60		44:47
17	B2.3	M18B		5500		60		62:17
17	B2.3	W21B		5500		60		67:46
18	B4.5	M60B	30	4600		50		51:23
18	B4.5	M55B		4600		50		44:41
18	B4.5	M50B		4600		50		38:40
18	B4.5	W50B		4600		45		64:48
18	B4.5	W35-45B		4600		45		54:10
19	B4.5	M70	30	4200		45		41:29
19	B4.5	M65		4200		45		39:31
19	B4.5	W60-65		4200		40		44:17
19	B4.5	W55		4200		45		50:01
20	B6.7	M16B	28	4600		50		34:50
20	B6.7	W20B		4600		50		54:10
20	B6.7	W18B		4600		50		65:36
20	B6.7	W16B		4600		40		40:09
21	B6.7	M14		3700		50		23:54
21	B6.7	M12		3700		45		27:00
21	B6.7	M10		3700		40		44:54
21	B6.7	W14		3700		40		27:42
21	B6.7	W12		3700		40		40:36
21	B6.7	W10		3700		40		
22	N	M16N		3600				29:49
22	N	M15N		3600				25:56
22	N	W16N		3600				30:35
22	N	W15N		3600				31:15

スは地図の縮尺を1万分の1にして欲しい一原図を拡大して一という希望があった。理由は勿論老眼のためである。ベテランズ・ワールドカップなどでは既にそうになっており、コストの問題もあるが、是非考えておくべき課題である。)

ただ、M(W)21Aだけは少し違う。このクラスはEクラスへの登竜門である。従ってEクラスを走ってしかるべき人を選び出すという課題がある。そのためかなり厳しいコースになる。幸いM(W)21ASというクラスが出来、この年齢層で体力的に弱い人はここに出るだろうと思われたので、思いきって厳しい目にコースを組んでみる事ができた。

### 3.B. Nクラス

このクラスの参加者には、失敗をして挫折感を味わわせることが無いようにしなければならぬ。Nクラスのコースはどんなに易しく組んでも参加者にとって易しすぎる事はないと言われている。走り終わった彼等に、「オリエンテーリングは易しいものだ」と思わせること。特に少年少女のクラスではこれが重要である。それが次の大会にも参加しようという意欲につながる。Bクラスも基本的には同じである。このクラスの参加者は実力の差が大きく、一つミスをすればかかる時間は非常に長くなる。従って要項のように、ウィニングタイム50~60分という設定では、遅い人は2時間以上かかるのがざらということになる。これでは遅い人には失敗感が残らない。優勝者には物足りないぐらいのコースで丁度良い。このクラスでは、ウィニングタイムよりも完走率が重要である。実は今回、このクラスにおいては、直前に当初のプランよりもさらに距離を短縮している。結果的にみてB、N全体でDNFが7名という数字に満足している。

### 設定の実際

それでは実際どのように組んで行ったのかを解説しよう。コースを組み始めた11月の時点では、地図の調査(2次)は殆ど進んでいなかった。私の手元にあったのは、地理院の2万5千分の1図と空中写真からの図化原図である。通行可能度は全くわからない。まあ比較的通れる所が多いと思われるのが救いであった。会場はすでに決定しており、参加者数の多い大会なので、スタートはあまり遠くにもって行かないほうが良く、スタッフの数を考えるとスタートは1箇所にした。こういう条件の下に考えはじめた。

まずはやはりE、Aクラスである。山岸倫也氏によれば(J.O)先ず始めに考えるのはロングレグだそうである。このタイプのテレインでは、ロングレグはどうしても道走りになってしまう。そこでできるだけルートチョイスの可能性があるか、途中で森の中を走らざるをえなくなるような、ロングレグのとれそうなところを物色する事から始めた。とくに21Eではスーパーロングレグをできれば2本は入れたかった。いくつかの候補は考えられていたが、実際使えるかどうかは、調査の仕上がり待ちである。10ぐらいのエリアに分けられた2次調査の結果のカラーコピーが、作図者の沖浦氏から届く度に、わくわくしながらそれを開封した。スタート地区は地図が仕上がらないまま、他に適当なところ(大勢の参加者が集まれる)がないので、あの場所に決まった。そうすると参加者の流れは反時計回りでほぼ決定する。あとは良さそうなロングレグを使い、可能度の良い林の広がっているところで、



技術を要求するミドル〜ショートレグを考えることである。問題はそれらをつなぐ中途半端なレグであるが、これの解決策としては、1.道走りしかないところでは、ルートチョイスの可能性を見せる。2.それでもできないところではあっさり道走らせるが、その後のアタックに慎重さを要求する。というふう考えた。私の好みとしてルートチョイスの課題というのが好きなので、ショートレグであってもできるだけ微妙なルートチョイスがあるように仕向けたつもりである。

とはいえこれを組むのは簡単ではなかった。とりわけ障害となったのは多数散在する民家と耕作地である。試走の度にあそこは通れない、ここも通れないというのが続出した。ルートチョイスの一方が良くて他方で民家、耕作地にからむ可能性があればそれは使えない。多くのコースでかなりの部分シンプルにならざるを得なかったのはこういう理由による。

さらに試走者の感想から、トレインはかなりタフであることも判明した。結構斜面がきつかったり、林の緑のわずかな

部分が通りにくかったりするのだ。そのため細かいアップダウンが多いと非常に時間がかかる。巡航速度の遅いオリエンテーリングは非常にダレた感じで疲れるものなので、これを出来るだけ避けて、林の中も細かい読図という技術的課題は残しつつも、できるだけスピーディーに通過させるように仕向けた。

次に給水、救護所を決めなければならない。規則上ウイニングタイム60分以上のコースがあれば給水所を設けなければならない。(通常のクラシカルレースでは全ての大会となる。)ただ必ずしもコース上と規定されていないのが救いであるが、給水所にふさわしい場所は限られる。幸いコース中盤に道路の幅の広がった所があったので、交通量も少ないことからここに決定した。しかし比較的短いコースではプランニングに制約を与えたのも事実である。理想を言えばもう1箇所コースの後半にあるほうが良いが、スタッフ数の問題や季節の面から1箇所だけで良いだろうと考えた。

B、Nクラスについては、まず一番単純なNクラスの回し方を決めた。そして1ランク上がる度に、少しずつ課題が増え

て、難度も上がるようにしていった。このクラスにあっても、若年者はできるだけ簡単に、高齢者はできるだけ林の中へ入れるように考えた。60や70のクラスが技術的に易しすぎるといふ参加者もおられたが、クラス分けの概念は「記号無し」はB相当である。Aレベルのコースを楽しみたい方は男子で60以上、女子で50以上は年齢制限の無いオープンになっているので、是非このクラスに出ていただきたいと思う。昨年行われた参加資格の改訂にはこういう意味もあるのだと理解して頂きたい。M21Bの距離をどのくらいにするかも悩んだが、これは勘で決めた。難度が高くないので、おそらく距離に比例するタイムが出るであろう。途中でトレインの中央部に工事区域が出現し、大幅に回し方を変更したのだが、この偶然の結果、むしろ当初のプランよりも良くなったかもしれない。

次に私を悩ませたのはコース数(クラス数)の多さの問題であった。かつてこれほど多くのコースを同時に組んだ事はないので、多くのコースが複雑に交錯するのは大変だった。使えそうなレグは、いくつかのパターンを決めておい



て、その組み合わせでコースを編成している。表3を見ていただければわかるように、E,Aクラスでは14コースに対して、試走段階では9コースしか作っていない。同じグレードのクラスはM21A1, M21A2のように、基本のコースに対して、いくつかのコントロールを、組になった2箇所に分けるファシユタ方式のパターンで組んでいる。実はこれが7コース(M20A)と8コース(M40A)、9コース(M45A,W21A)と10コース(M21AS)、12コース(W35-40A,W21AS)と13コース(M60A,W45-50A)でも同じ様な組み方になっている。ただし、M20AとM40Aでは、コースコンセプトのところで述べたように、M20Aをやさしめのコントロール位置にするように差をつけた。

最後に問題になったのがコントロールあたりの通過人数である。クラス別のエントリー数がJ O Aから知らされたのは2月の末であった。ここで初めてクラスとコースの併合を、参加者数の面から確定できたのであるが、予想よりもエントリー数が多かった事もあり、同じコントロール位置を複数コースで使うのにも限度が生じた。良いコントロール位置は多くのクラスで使いたいのが人情であるが、使いすぎると「人だかり」ができてしまう。例えば228などはAクラス向きの非常に面白いコントロールなのだが、当初の計画ではあまりにもここに人が集中しすぎる事になったので、やむなく240というコントロールを追加して1箇所への集中をなくした。ここだけ周り番号が異なるのはこのためである。この点は、私は「公正さ」という面で極めて大きい問題だと思う。1つのコントロールへの集中はいわゆる「出入り」よりももっと不公平なものだと思えるし、何よりもO Lの楽しみの一つを奪ってしまう。大きな大会では心すべき点である。では一体どのくらいの人までが一つのコントロールの許容範囲なのだろうか。これについては明確な回答は出せないのだが、今回は通過予定人数が450人を超えるコントロールは、特定の誘導コントロール以外は無いようにしている。人の集中する時間帯を約2時間として、2人/分×60×2で240人位ならいいかなと思うのだが、「混み具合」はどのくらいだったのであろうか？「おいしい」かつ「適正な」コントロール位置はそう多くはない。どうしても一部のクラスでは「面白さ」は犠牲にならざるを得ないのが残念である。

次によくいわれる「出入り」の問題に移ろう。不公正なコントロールの代表格として、「出入り」は目の敵にされているようで、ちょっとした「出入り」があるとすぐに「あそこは出入り(=悪いコース)だった」などと批判されるのだが、私の意見としては、ルートチョイス

のとり方によっては出入りが起こりうる事は、容認されても良いのではないかと思う。勿論奨励するわけではないし、意味の無い「出入り」を認めるつもりは無いのだが、「出入り」というルートを選択するのも作戦のうちの一つという考え方もある。アタックとルートのバリエーションの中で、可能性の一つとして「出入り」が生まれるのであればそれはそれで良いのではないだろうか。例えば246や280などは、確かに「出入り」とも言えるのだが、皆さんはどう思われるだろうか。私は280はNクラスの人に少し林の中に入ってもらうというつもりで置いたのだが…。

むしろ気をつけなければいけないのは、「同じコントロール間の逆向き使用」や「コースによりアタック方向が異なる事によって生じる出入り」である。前者は比較的最近の公認大会のエリートコースでも見られている。後者の具体例としては、今回の場合228と229の関係が良い例である。229はM21Eにのみ使われたコントロールでこの後は224へゆく。この方向は南もしくは西から入り、東もしくは北へゆくので、この付近を通る多くのコースと逆行する。この近接の228は他のコースで東または北から入り、南へ抜けて行く。このとき先程の問題(人の集中)で228の半分を別のコントロールにしたいと考えて、これに229を使用すると、「229をチェックして出て行くM21Eのランナーを見て、他のクラスのランナーがアタックをする(あるいはその逆)」が起こり得る。だから229は決して228の代わりにはならないのである。うっかりすると容易に起こりうる問題で、偉そうに書いてはいるが、実は今回のコースで絶対無いかといわれると自信が無い。どうも大きい大会であればあるほど、公正さのためには面白さが犠牲になるような気がする。

こうやって今回のコースが決まった。各コース毎の技術的な意味合いなども書きたかったのだが、長くなるし皆さん自身で想像していただいてもあまり大きな間違いはないであろう。現在各クラス優勝者のルートなどを書いてもらっているが、それを見ているとこちらが予想しなかった意外な感じのするルートも多い。機会があれば公表してみたいと思っている。

おわりに

全日本大会が(結局)大阪で開催されることが決まったとき、実はあまり積極的にかかわるつもりはなかった。もちろん地図調査や当日の運営はするつもりではあったのだが、それで十分で、単なる一兵卒のつもりだった。しかし二次調査が佳境に入りかけていた10月、大会会場

で会ったとき、競技責任者の西田氏から、「実はまだコースセッターが決まっていない。そろそろ決めないといけないのだがやりませんか？」という話を持ちかけられた。その時私は、「とてもこんなビッグ大会のコースを設定するのは、荷が重いので勘弁してほしい。大阪には有能な若手オリエンティアもたくさんいるし…」と返答した。しかし案外適任者がいないという話でその場は保留になった。

しかししばらくたって、私の中に「やってみようか」という気が芽生えてきた。大阪で全日本規模の大きな大会が開かれることは今後まずないであろう。もしかしたらこれは私の一生のうちで、最後のチャンスかもしれない。いままであまり本格的なコースセットはしたことがないのだが、まあなんとかなるだろう。難しいけど面白いかもしれないと思直したのだ。冒頭に述べた大会の事が意識の底にあったのかもしれない。その週の週末に出張先の札幌から西田氏宅に電話をかけた。「全日本のコースセッター、やらしてもらいましょう。」

今回のコースセットで感じた事は、「コースセットもひとつのアートである」ということである。与えられた種々の条件の中で、いかに参加者に満足してもらえるか、いかに競技者の能力を要求するのか。無限の可能性のなかから一つのコースを作り出して行くには、莫大なエネルギーを必要とする。そこから産み出されたものは、セッターの個性と創造力の産物である。今回のコースに面白みが欠けている点があるならば、(正直なところ私自身も満足に仕上げられずに悔いの残ったコースもある)それは私の創造力の低さによるものであり、ご容赦頂きたいと思えます。

良いコースを作るのに絶対的に必要不可欠な条件は、正確な地図である。その点、今回の地図作成にかかわった調査者のメンバーには深く感謝している。原図の条件、あまり良くなかったにもかかわらず、正確な地図を作り上げた彼等(私も含めて)の能力は高く評価したい。さらに寒い中を試走して、私の目と手足の代わりになるとともに、忌憚のない意見を述べてくれた試走者の皆さん、コントローラーの仕事をお引き受けいただいた芝氏、そして何よりも、私にこのチャンスを与え、多くの情報を提供してくれ、厄介な問題に常に相談に乗ってくれた、西田伸一氏に感謝の意を表したい。ありがとうございました。大会全体を通して、いろいろと問題もあり、責任者の瀬戸氏をはじめ運営スタッフは皆大変な苦勞をされていたようである。そんな中で、当初「あまりかかわらない」と言っていたにもかかわらず、結果的に一番この大会を楽しませてもらったのは、実は私であったのかもしれない。

# ユニバーシアド & JWOC 日本代表選手決定

セレクションレース：平成8年4月29日実施 於 栃木県日光市

去る4月29日、インカレ団体戦が行われた日光所野テレインで、本年度7月に開催されるSWOC（世界学生選手権：ユニバーシアド）と、JWOC（世界ジュニア選手権）の日本代表選手選考会が開催された。選考会の結果と決定された代表選手（★印）は以下のとおり。

選考過程や、代表選手の抱負など、詳細については来月号にて報告。結果についてのみ今回速報する。

## 選考会成績

★：代表決定選手

ME

★1 内田 恵司	北海道	1:03:42
藤城 公久	筑波	1:06:14
★3 野田 昇作	北海道	1:08:06
★4 太田 晃弘	東京	1:08:11
★5 大西 淳一	東京	1:08:47
6 野田 健史	東北	1:10:27
7 土井 聡	東北	1:11:04
8 柳瀬 陽一	京都	1:11:21
9 桜井 太郎	東京	1:11:29
★10 薛 孝太郎	京都	1:11:36
11 山内 亮太	早稲田	1:11:51
12 羽柴 公貴	早稲田	1:12:13
13 久米田 誉晃	東北	1:12:20
14 武田 光	早稲田	1:12:30
15 山口 大助	千葉	1:12:31
16 太田宏樹	東工	1:13:02
17 柿並 義宏	東北	1:13:04
18 佐藤 時則	東北	1:13:08
19 佐々木 慎一	筑波	1:13:42
20 諏訪 高典	京都	1:15:15

21 野上 健士	東京	1:15:55
22 和久田好秀	静岡	1:16:18
23 安田 忠寛	中京	1:16:21
24 石澤 俊崇	早稲田	1:16:38
25 白土 英治	東北	1:17:50
26 美濃部 篤	筑波	1:18:42
27 江崎 保夫	静岡	1:19:59
28 加々美健朗	筑波	1:20:13
29 小海 則人	筑波	1:20:35
30 高島 和宏	東北	1:21:04
31 安良 和寿	筑波	1:21:53
★32 石井 泰朗	東北 JW	1:22:17
33 小林 哲	静岡	1:22:38
★34 小暮喜代志	筑波 JW	1:24:26
35 近藤 貴文	東京	1:25:08
36 山下 友宏	筑波	1:25:29
★37 古田島貴之	新潟 JW	1:33:55
38 山口 佳吾	東北	1:34:09
★39 庄田 慎矢	東京 JW	1:34:52
40 加曾利正典	筑波	1:36:09
★41 村上 健介	筑波 JW	1:37:44
★42 田濃 邦彦	静岡 JW	1:37:47
43 水嶋 孝久	静岡 JW	1:38:19
44 平石 大介	慶応 JW	1:38:23
45 小松 弘武	順天堂 JW	1:43:01
46 山田 敦史	東北 JW	2:00:57
47 中野 浩一	新潟 JW	2:05:17
48 森下 健一	新潟 JW	2:37:58
49 北川 克彦	新潟 JW	2:38:39
入江 崇	東北	失格

(参考) 試走:

鹿島田浩二	56:05
村越 真	57:10
加賀屋博文	57:33
鈴木 卓弥	59:09

WE

★1 中村 正子	筑波	0:47:36
★2 原 志保子	静岡	0:49:44
★3 金田 収子	静岡	0:50:59
★4 田中 節美	筑波	0:51:02
★5 林 ゆかり	筑波	0:53:37
6 志村 聡子	早稲田	0:54:16
★7 山内 祐子	本女	0:55:40
8 片岡由起子	筑波	0:56:08
9 大西真理子	東女	0:57:01
10 山本 康世	ICU	1:00:16
11 小林 拓恵	東北	1:06:04
12 清水由布子	東北	1:06:21
13 中尾あずさ	実践	1:09:54
14 小林るみ子	新潟	1:09:57
15 山口 純子	名古屋	1:09:59
★16 高橋ひとみ	東京高専 JW	1:21:03
★17 安井 千晶	京都橋 JW	1:22:58
★18 佐藤 渚	京都橋 JW	1:25:39
★19 野村 佳代	奈良女 JW	1:30:10
20 石川 綾	滋賀県立 JW	1:35:03
21 藤澤 千尋	学習院 JW	1:46:09
山浦 友子	京都橋 JW	失格

(参考) 試走:

福士 淑子	41:46
金並 由香	46:33
田島 利佳	48:54

・大学名は、在籍または、母校  
・大学名の後の JW は、JWOC対象選手

4月29日の選考会に参加した皆さん（選手&運営&観戦）。

# インカレ95外伝 女子はもっと強くなれるはず？

奈良女子大学チームオフィシャル 桐田幸宏

インカレが終わって2ヶ月が過ぎた。今回はオフィシャルをやっていたので取材もできず、久々にインカレの記事にタッチしない春を迎えている。しかし、それもちょっと寂しい。女子のオフィシャルという立場からインカレを振り返ってみて、何点か気付く点を記事にしてみたくなった。女子だけに片寄ることを考慮して、外伝というタイトルをつけさせてもらった。4月号の岩出君のインカレ記事とも全く独立させて、勝手な一投稿記事の体裁もとっている。わがままな記事だけど、そういうことで許してほしい。でも内容的には、オフィシャルを一年間やって感じた、女子の指導・育成に対する一つの疑問を真面目に取り上げたつもりである。

## 新人女子 人口の減少と関西の活躍

インカレの参加人数は、ここ数年減少の一途をたどっている。そもそもの学生数の減少が背景にあるのだろうか、それにしても減り方が著しい。要となる新人のエントリー数を追ってみても、第15回大会には583人のエントリーがあったものが、16回以降528人、496人、367人と著しく減少。18回大会/15回大会比をとると、この3年間で63%にも減少している。同じ比を女子の、しかもFAクラスにエントリーしたもののだけで見ると、この3年間で52%に。実に半減しているのである。この女子FAクラスにおけるエントリー数推移を学連別でグラフにしたのが下のグラフである。昨年度は、100人を割るという異例の事態で、関西以外の全学連で大きくエントリー数を減らし、中でも関東の激減ぶりは悲しいほどの実態であった。

こうした結果はインカレにとって大きな危機といえるだろう。何が原因でここまで減少するのは定かでない。しかし少なくともその原因によらず、学連は少なからずの危機感を持ってほしいと思う。新勤に力をそそぐことも、インカレのエントリーに力をそそぐことも、これまで以上に学連と各大学に課せられた大きな課題であろうと筆者は思う。参加費の納入が11月に繰り上がったことも、エントリーをにぶらす一つの要因になっていたようだ。「それならかない」と言う1年生を食い止めるための啓蒙も、やはり各大学に大きな課題となるだろう。

このまま減少を続ければ、インカレのみならず学生OL界そのものが危うくなる。オリエンテーリングの社会的地位を考えれば、人工の減少は歯止めのない悪循環を誘発してしまう。やばい。新勤・新人育成に、是非とも奮起して欲しいものである。



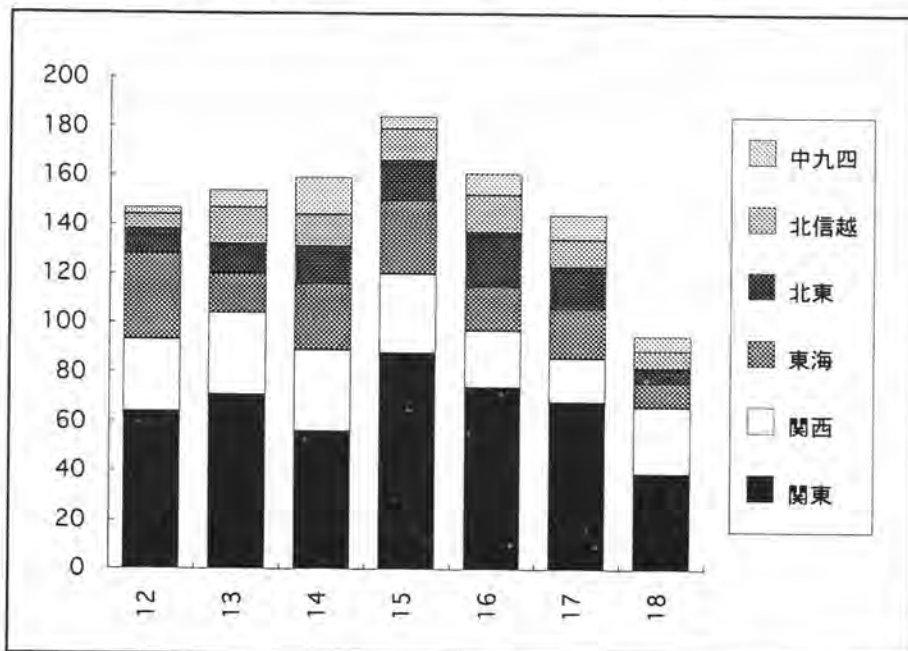
WFA1に優勝した田中邦子選手（写真は、10月のショートインカレで新人特別表彰を受けているところ）



WFA2表彰式 左から、2位・牧口菜保子（実践女子）/1位・吉田奈津子（茨城）/3位・辻井亨子（京都女子）

<成績> ★：関西学連加盟員

WFA1		WFA2	
★ 1	田中邦子 京都女子	1	吉田奈津子 茨城
★ 2	野村佳代 奈良女子	2	牧口菜保子 実践女子
★ 3	山崎友香里 奈良女子	★ 3	辻井亨子 京都女子
★ 4	堀川真理子 奈良女子	4	藤沢千尋 学習院
5	渡部裕美子 東京農業	5	河野真理 日本女子
6	小林理恵 宮城学院女子	★ 6	木下陽子 立命館
7	菅野和子 相模女子	★ 7	高橋正子 京都女子
★ 8	佐藤渚 京都橘女子	8	藤原恵 弘前大医療短期
★ 9	山西留美 奈良女子	9	鎌田深雪 新潟
★ 10	河村峰子 京都大学	10	石富妙 筑波



インカレ個人戦 WFA (DFA) クラスへのエントリー数推移

左のグラフを見ていただければわかるように、今回は結果として、関西学連に相対的にいいパフォーマンスを与えた。人数的に関東と拮抗してきたから、上位入賞に対しては関西の活躍は期待できたことである。単純に確率的に考えて、そうなるからである。しかも人数を伸ばした関西と、減らした関東では、学連としての盛り上がりも全然異なろう。それは目に見えにくいことかもしれないが、関西では感じられたことであった。京都女子・京都橘女子・奈良女子などの、それぞれの盛り上がりによる相乗効果ははっきりと感じられていた。12月に行われた新人戦において彼女たちが強いライバル意識を燃やしたのもその現われである。

関西学連新人戦は、個人戦を京女（高橋正子）が制し、団体戦を京都橘が制した。そしてインカレ個人戦。WFA1では京女が制し、あとを奈良女が続いた。WFA2では3位に京女。個人戦では、概して橘がふるわなかった。

WFA1を制した田中邦子は当時2年生である。学連登録は1年目であるが、実質は2年目。京女は彼女をWAクラスにエントリーしようとしたらしいが、実行委員会から、前例がないということでWFAへのエントリーしか認められなかったそう。彼女は、10月のショートインカレでも新人特別表彰を受けている。ショートのエリートでは、もう少しで優勝に残れるほどの好成績だった。今回、金メダルには恵まれたものの、短大生の彼女は残念ながらこれが最初で最後のインカレとなった。社会人としての活躍がこれからも期待される。

京女はこの田中邦子のほか、WFA2で3位の辻井享子の2人が入賞。学連新人女王の高橋正子は7位に終わったが、この辻井と高橋は4年制の学生。関西の古豪としての京女に一時代を演じてくれそうだ。

WFAにエントリーした6人が、全員WFA1クラスに割り振られた奈良女は、2・3・4位の上位を独占した。順に、野村佳代・山崎友香里・堀川真理子の3名である。京女と同じく将来が楽しみである。

京都橋は、WFA1で8位の佐藤渚しか10位までに顔を出していない。しかし橋にはあと2人、注目されていた選手がいる。一人はWFA2で実質4位のタイムでゴールしながら失格となった安井千晶。ラスポからの誘導途中で地図を落とし、気付いていながら、失格になるとは知らず、それを拾う時間を惜しんでゴールを駆け抜けた。失格だった。いま一人は、前日の開会式の前に、開場時の押し合いで怪我をし、左膝の上を11針縫うという悲劇に見舞われた山浦友子。しかし傷を押してレースには出走している。橋は翌日の団体戦でこの3人が新人チームを組み（安井一佐藤一山浦）新人特別表彰を受賞した。WU全体でも6位にはいる好成績である。怪我を押して2日間を走り切ったアンカー山浦の姿は感動的でさえあった。橋もまた、将来に大きな期待がかかっているのである。

今年から来年にかけて、関西女子には注目をしてほしい。なお、橋の安井・佐藤、奈良女の野村の3名は、4月29日のセレクトションにより、本年度Jr.WM（ルーマニア）の日本代表選手に決定している。

関東にも触れておこう。WFA2で優勝した吉田奈津子は、ショートインカレの新人王でもある。高校からの経験者だ。2位の牧口菜保子もショートで9位入賞している。10位までメダルがもらえたショートインカレでの他の入賞者を追ってみると、今回WFA2で4位の藤澤千尋、5位の河野真理がそれぞれ6位・7位で入賞していたのにも注目されよう。早大OCに属する藤澤と河野は、学習院と日本女子の、それぞれだった一人の1年生。ある意味で関東学連の新動の不毛さを象徴していたのかも知れない。この春の新動でうまくその反動が出て欲しい。なお、インカレ当日体調を崩していた河野は解熱剤を飲んでの出走だった。



個人戦WFA1で2・3・4位の上位を独占した奈良女子大学（左から堀川真理子・野村佳代・山崎友香里）



団体戦併設・新人特別表彰を受けた京都橋女子大学の3名（左から、佐藤渚・山浦友子・安井千晶）。写真は、96/2全日本リレー大会の帰り（二子松駅前）。安井と佐藤は京都の、山浦は長野の選手権クラス代表として、1年生ながらの出走を果たした。

## 筑波の強さへの疑問符

今年も筑波大女子の強さはいやというほど見せつけられた。選手権で優勝の上、併設クラスでも昨年に続く1・2・3フィニッシュ。インカレに参加した19人のうちの、実に6割強、12人の選手が団体戦のメダルを持って帰ったことになる。もちろん筑波へは惜しみない称賛を送るべきである。これからも、その伝統の強さを維持し続けてほしい。本当におめでとう。

さて、しかしそれにしても、この強さはい体何なのだろうか？ 体育会系のサークルなんだし、環境にも恵まれているから、ある程度強いのは理解できるし、もちろんそれ以上に彼女たちの努力は大きい。ただ、ここまで結果が出るのはやはり異常だろう。他が弱過ぎるのだとばかりは思わない。特に併設クラスにおいてまで筑波にメダルを独占させてしまうのは、他の大学の弱体ぶりをたださらけ出しているだけなのではないのだろうか。

一つは部員数の問題があげられる。選手権すら出られない大学があるくらいだから（3人すら出られなくて）、選手権に3人を出してしまうともはや・・・と言った調子になる大学は多い。でも筑波だって決してエントリー数が極端に多い訳ではない。千葉・新潟・実践女子・信州・奈良女子・京都橋女子・京都女子・津田塾・岡山女子大・・・などは、筑波に遜色ない選手数をインカレに送り込んでいた（1年生で稼いでいる大学もあるけど）。なぜそれらの大学が筑波に一矢報いられないのか？ そこに本質的な問題があるのではないだろうか？ 1年間を終えて強く感じる大いなる疑問である。

秋にこんなことがあった。春から動いていたことなのだが、村越さんにコーチをお願いして奈良女の秋合宿を企画していた。たまたま東京女子大学の山本徳子オフィシャルが同じく村越さんに話を持ちかけていたこともあって合宿は合同で行うことになった。そこに静岡大学と静岡県立短期大学も加わって、4校合同の秋合宿へとふくらんでいった。形式的には奈良女の合宿ということになっていたのでほくが取りまとめでいたが、1ヶ月くらい前になって、東京女子大経由で話を聞いた東大OLKの他の女子大の何人かが（津田塾・実践・ICU・お茶の水から一人づつ）、参加の可否を間接的に問い合わせてきた。すでに予想外に人数が膨れ上がっていたので断わりたかったが、そうもいかず僕から直接本人に話を聞くことにした。「でたいの？」「はい。速くなりたいですから」。直接言葉を交した時、正直言って驚いた。なんで東大OLKの子

が、散えてこういった機会をそんなに大切にすのか。思うに東大OLKといえども、いやこんな大クラブであればなおさら、個人個人にわたってケアがなされる練習の機会がないのだろう。練習会や合宿は豊富にあるものの、個人個人をとって見れば、決して充分には指導を受けていない。そして重要なのはこのことだと思うのだが、その個人個人は本当は指導を受けたがっているのである。もちろん、そうでない人もたくさんいるが、そういう人と、指導の機会に恵まれるエリート層との間に、本当はもっと速くなりたいのに・・・と願っている恵まれない中堅層がたくさんいるのではないかとそれが女子学生オリエンティアの実態であるのと思う。女子のケアについては、近年エリート女子（or SQUAD）主催による女子合宿が定着してきている。しかし基本的にはエリート選手対象、あるいは非常に積極性のあるタイプの選手が対象となっていて、なかなかちょっとした選手には参加しづらい。中堅どころはやはり各大学の環境に左右されるしかないのだ。

筑波を除いて、思ったほど成果が挙がらないのはなぜなのだろう。指導が行き届かないのはどうしてなのか？ この疑問は女子にとって死活問題のように思えるが、筆者の理解が及ぶ奈良女に限って言えば、競技的コミュニケーション

の機会がないのだ。練習会や合宿を開く時間とパワーが捻出できないのである。一人一人細かくケアするにはあまりにコーチングパワーが不足しているのである。ほくは、筑波が強いのは、彼女たちがその恵まれた環境によって、いつでも男子選手や女子エリートの先輩に見てもらえる、あるいは、そうとは意識していなくてもそのコミュニケーションが最大限のコーチングを演じているのではないのかと思う。更にその上に立派なオフィシャルがいるのだし。筑波はそうした環境が一番すぐれ、段突で優れているのだろう。千葉や東大OLKも環境はいいはずだが、何か不足する側面も多いのだろう。男子の強い北海道や東北や広島も環境はいいのだろうが、いかんせん部員数が少ない。京都橋や奈良女のような女子大単独クラブは、なんとかコーチ陣を保っているが、コーチがいなくなれば、競技的意識の維持にすら疑問を感じる。

問題は日常の機会。日頃からコーチングされる、あるいはそんなかたっ苦しい意識はなくても、日頃から自然に大会や練習会でのケアを与えられる何がしかの環境が女子にはもっともっとほしい。そしてそれを周りが意識してあげてほしいと思う。それだけのことで女子はもっともっと強くなれるのではないかと。奈良女の成果だけを見てほくにはそう思えてならない。



奈良女・東京女子・静岡・静岡県立 合同秋合宿（95.11.18～19）於・岡崎東公園

# 4つの初入賞校

今回の女子団体戦の大きな特徴の一つは、6つの入賞校のうち、4校もが初入賞校であったということである。しかもその4校を含め、6校すべてが、男子も含めれば、のべ12校の入賞校がすべて国立大学でもあった。ちなみに「戦国時代の本格的到来」「国立大学の時代」といった声も流れている。しかし、国立大学の実態は、特に地方に限って言えば、決して楽観視はできないし、その活躍ぶりとは裏腹に、あいかわらずの部員不足に見舞われているのが深刻な実態である。

特に深刻なのが、ここ数年注目され続けてきた北海道大・東北大、さらにはここ数年、優勝を争うほどの大活躍を続けてきた広島大・静岡大といった典型的な地方国立大学である（静岡はちょっとニュアンス違うか?）。この4校の日光インカレにおけるエントリー数は右表のとおり。1か0かのレベルで深刻な新人獲得問題を抱えている。それでも数少ない人材を最大限育ててくれたのは、同大学の男子の向上・活躍によるものと思われる。男子も含めた全体としては、地方国立大学を含む戦国時代がすでに到来していたからである。そして彼女たちはそれだからこそ、一人一人が成長するには充分なケアを与えられていた。いい環境の中で意識もレベルも向上してきたのだろうと思う。

位置付けは同様だろうと思われるが、新潟大学は部員数にも恵まれてきた。新潟大の入賞は、ある意味で当然の成果である。数も意識も満たされて、入賞すべき時代が待っていたのだらうと思う。

奈良女も部員数には恵まれているほうである。牽引する男子のいない中で、創部当時より苦労を重ねてきた歴代のコーチ陣の成果であろう。数年前に入賞していた京都橘女子大なども同様である。

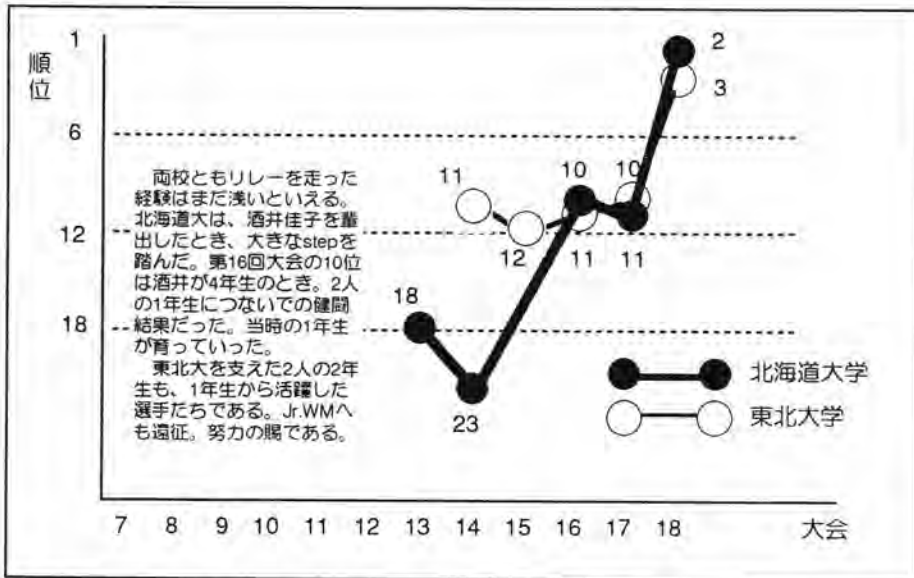
今回、国立大学の初入賞が目立ったのは、歴史的な偶然に過ぎないのではないかと筆者は思う。今一步のところ初入賞をのがした私立大学、流れとしてはそろそろ入賞を果たしてもよかったような私立大学が、入賞の真下にゴロゴロしていた。実践女子大学(7位)・ICU(8位)などは紙一重のところ初入賞をのがした。

7位~10位までは、東大OLKに所属する大学が占めている。部員数に事足りているこれらの大学にとって、入賞へのstepは、ただ意識のもちかた次第ではなからうか。長い目で見れば、地方国立大学より圧倒的に有利なのだから。実際、同クラブは、お茶大や津田塾のような優勝校も輩出しているのである。今後も彼女たちの入賞への近道は、その可能性を自ら意識することであると筆者は思っている。

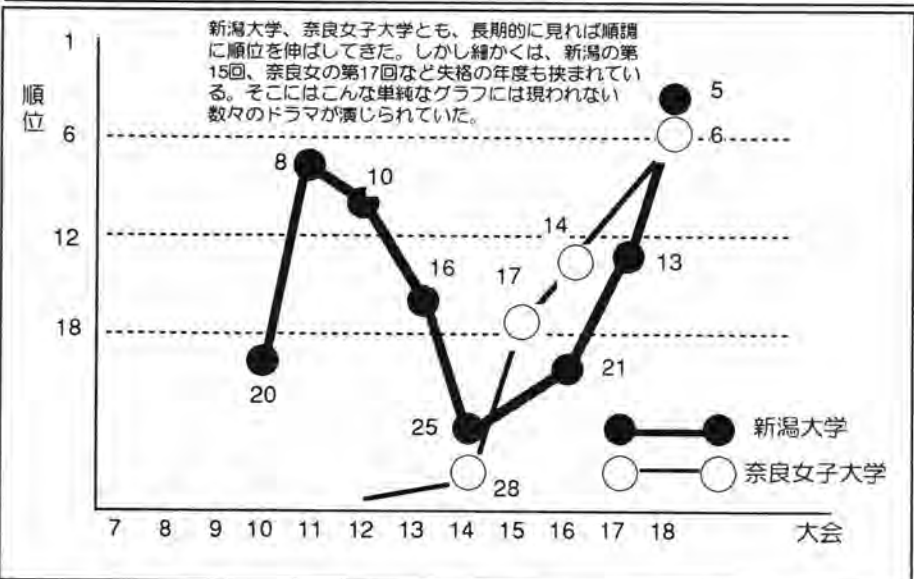
今回の4校の初入賞で、入賞経験校は、出走校のおよそ半数に及ぶこととなった。各々の事情の下に、各大学それなりにがんばれば、戦国時代は当分くずれない。部員数の確保さえできる限り、女子はますますおもしろくなるだろう。

筆者はただただ、新勤の充実と、育成の充実を願っている。

	北海道大学	東北大学	静岡大学	広島大学
4年生	0	小林 1	原・富田 3 益子	0
3年生	池田・谷口 5	0	0	横山 1
2年生	河野 2	清水・丹羽 3	4	柁・畑山 2
1年生	0	0	1	0
合計	7人	4人	8人	3人



日光インカレ女子エントリー数。記入した名前は、団体戦代表選手。4大学合わせて新人はたったの一人であった。本年度の新勤に期待がかかる。



## 団体戦女子成績 ★ 入賞経験校 ★★ 優勝経験校

1	筑波大学	2:31:42	★★
2	北海道大学	2:47:48	★初
3	東北大学	2:49:06	★初
4	千葉大学	2:49:21	★
5	新潟大学	2:52:49	★初
6	奈良女子大学	2:58:21	★初
7	実践女子大学	2:59:24	
8	国際基督教大学	3:02:15	
9	東京女子大学	3:02:35	★
10	津田塾大学	3:10:16	★★
11	静岡大学	3:11:30	★
12	信州大学	3:20:16	
13	日本女子大学	3:22:22	★
14	椋山文学園大学	3:27:55	
15	共立女子大学	3:35:37	
16	京都橘女子大学	3:38:35	★
17	静岡県立短大	3:40:05	
18	広島大学	3:42:00	★★
19	京都女子大学	3:43:52	★
20	大阪外国語大学	3:57:41	
21	お茶の水女子大学	3:58:17	★★
22	宮城学院女子大学	4:09:16	
23	横浜国立大学	4:15:10	★
24	図書館情報大学	4:20:45	
25	京都大学	4:28:38	★
26	金沢大学	4:31:33	
27	埼玉大学	4:48:07	
28	東京学芸大学	5:09:13	
29	名古屋大学	5:17:27	
失	広島女子大学	5:03:50	
失	東京農業大学	5:36:29	
失	相模女子大学	P1	★
失	愛知県立看護短期	DNQ	

## 新潟大学 4人分のTシャツとハチマキと

新潟大学女子には過去に一つの黄金期がある。岩谷ひとみ・佐藤泉・降旗由美子の活躍していた時代。団体戦に参加を始めてまだ間もない第11回大会（奈良）・12回大会（埼玉）のころに入賞を狙える位置で健闘を演じていた。このころの女子OL界は、ちょうど戦国時代が幕開け始めたころ。入賞6校のタイム差が縮まり、真剣に入賞を狙う大学が増えつつあった時代である。しかしこのころの新潟大学はまだ、雪に閉ざされた冬には、まったくオリエンテーリングをやらぬ。そんなクラブだったという。

その後新潟大学女子はしばらくの低迷期にはいる。クラブが変わってきたのは第15回大会（滋賀）のころから。村越さんを呼んで埼玉で合宿をやった。このときコーチとしてきたのが利光良平氏や、元木悟氏であり、このときの1年生が今回の4年生。すなわち照井素子や大久保和泉などであった。そしてこの年が、元木オフィシャル体制始まる年でもある。迎えた滋賀インカレ。戦力の落ちていた新潟大学は、1年生を起用せざるを得なかった。走ったのは個人戦で調子がよかったという夏井。走れなかった照井が悔しくて泣いていたという。その照井、団体戦新人特別表彰のメダルを手にしたがの悔し泣きである。翌年の夏、会内杯で2年の照井が優勝、大久保が2位だった。彼女たちをかわいがってきたオフィシャル2年目の元木氏はうれしかったようだ。『3年間彼女たちとやるしかない』と思っていたという。そして群馬インカレ（16回大会）。個人戦エリート走った照井が2年生の中では2位の成績。団体戦の2走に起用された。チームの結果は21位と芳しくはなかったが、併設クラスでは、丑木淳子・小林るみ子が2年連続の新人特別表彰を受賞。照井・大久保・丑木・小林。その後の2年間を彩る主役4人が、ようやくそろったのである。

彼女たちが3年生となった静岡インカレの年度。元木オフィシャルの一番の夢は大久保を走

らせることだったようだ。大久保とは大会ごとにレースアナリシスを交換。よく電話もしていた。『（大久保は）自分のあこがれのエリートに出てみたいと、一生懸命がんばっていた』と元木が語る。この年は、団体戦メンバーの決定を彼女達自身でやるということになっていたらしい（男子は元木オフィシャルに決定権があった）。一緒に走ってきた2つ上の先輩たちが卒業して、自立する気持ちもあったのかもしれない。しかしメンバーの決定は直前合宿でもめにもめた。飲み会の時間になっても女子が一向に現れない。もめている中を元木が見に行き、一言二言なかき言ったという。そしてメンバーはすぐ決まった。『元木さんの一言で走ることに決めました』と大久保。その時に『オフィシャルに必要だ』とも言われたらしい（そんなこともあって、翌年にはまたオフィシャルに決定権が戻っていく）。そして静岡インカレ本番。2年生の小林るみ子が個人戦で13位の好成績を収めた。元木は小林を一先に起用。この時点でメダルをとれると思っていたと彼は言う。しかし一走はうまく行かなかった。北信越初のメダルは夢と消えた。しかし男女とも、クラブとしての盛り上がりはまさに歴史的な最高潮に達していたのかもしれない。そんな中を、照井・大久保・丑木たちが、そして元木オフィシャルが最後のインカレを迎えていく。

95年度。飛躍的な成長を遂げたのは小林るみ子だった。JWOC日本代表選手として海外に遠征。ショートインカレではシード選手にも指定された。さて、4年生の3人は、元木はこの3人を年末年始のAPOCに連れて行った。4人がすべて海外遠征。いろいろな意味で準備は着々と整っていたのだろう。早大OC大会が中止となり、部内の最終セレクションが直前合宿に。照井と小林は決定した。しかし最後の一人をどうしても元木は決めなかった。大久保と丑木。その日のレースが決まらなかったのは大久保だったが、総合ポイントでは丑木が上回っていた。一任されていた元木オフィシャルが



日光インカレ団体戦会場。左から、元木オフィシャル・照井選手・小林選手・大久保選手・加藤オフィシャル（写真提供：小林るみ子）

言う『あとの一人は個人戦の結果を見てからでもいいか』『いいです』。4人でメダルをとろうとしてきたインカレだった。走る3人はメダルをとれるが、残る一人はとれない。そこで、4人目となった一人は、男子でやはりメンバーをとるはずれる2人とMIXを組み。そして4人でメダルをとる。『それでいいか』『いい』。

落ちた一人が前日の夜にほかの3人へ悪影響を及ぼすことはないかと元木が心配する。『おっこちでも他を応援できます。大丈夫です』。彼女たちの言葉が元木の懸念を払った。

そしてTシャツもハチマキも4人分をつくった。迎えた日光インカレ個人戦。小林るみ子が3位。北信越学連について初の入賞メダルももたらした。

そして3人目の方は、丑木淳子・選手権27位。学連杯を獲得。大久保和泉WA2にて3位。元木の鑑定を受ける。大久保だった。4年間つきあってきたカンだったという。ところで丑木は一般に3年生と思われているが、登録3年目の4年生。丑木にとっても最後のインカレだった。元木が発表をしたとき照井と小林が泣いていたという。どちらが落ちても泣いたのだろうか。

1走・大久保は8位で帰還。3位集団の団子の中。2走小林も4位集団の団子の中、順位的には7位に上げて帰還。そしてアンカー照井が、団体戦3度目の花道を飾り、5位入賞の栄光とともに帰ってきた。MIXクラスも3位入賞。4人すべての首にメダルが輝いていた。

## 奈良女子大学 静岡インカレを乗り越えて

奈良女が初めてリレーを走ったのは、第12回大会（埼玉）の時である。奈良女の学生がインカレに顔を出して2年目、早くも京大OLCからの分離独立を果たした創部初年度のことであった。しかし彼女たちの意欲は長くは続かなかった。翌年はインカレには参加したものの選手権を走らさず。しかし、この時1年生だった北川文子が、この後の奈良女に一時代を築く。

北川3年の第15回大会（滋賀）。奈良女は1走3位という瞬間的な高順位に湧く。その1走を努めたのがこの時2年の橋本敬子。同じく2年の田中典子は2走ではすした。この3人が翌年、第16回大会（群馬）でもメンバーを組み。群馬インカレは奈良女にとっていろいろな意味で過去最高の成績を残す結果となった。参加人数も最高。初めてのメダルも輩出（田中が個人戦DAで優勝）。リレーも最高位の14位をマークした。この時オフィシャルを努めていたのが、創部時より監督を務めていた辻村歩監督と、今もコーチを続ける橋本裕志氏である。

いい雰囲気の中で終わるはずの群馬インカレであったが、開けてすぐの春、奈良女を驚かせる大きな事件が起きた。新2年生大量の退部である。部長になったばかりの中村タリ子ら新3年生には大きな試練が与えられた。新動にも失敗し新1年生の入部がなかった（新2年2人入部）。北川というカリスマ性のある逸材の卒業とともに、奈良女は2ことが重なりつつある。しかしこの秋、中村が個人戦のセレクションを通過した。4年生の橋本と田中も通過。3人のエリートを輩出し、一見外からは入賞も期待されるほどの好調さに写っていく。

この年、第17大会（静岡）のオフィシャルを努めたのは、橋本コーチ。仕事で忙しくなった辻村監督はすでに身を引いていた。橋本・田中が卒業すれば奈良女はしばらく低迷する。誰の目にもそう思えたことだろう。結果を出すのはこの年と、橋本コーチにも向かひしかの期待はあったに違いない。しかしレースは、2走を走った中村が大ブレイク。大きく大きく飛んで、ゴールをしたのは津田塾のウイニングランが終わったその直後だった。わんわん泣きじゃくる中村。しかも1走がペナで奈良女は失格だった。

静岡インカレが終わる、橋本コーチが身を引いていく。結果の出せなかったことに苦しんだ。「関わりになったら、彼女達にとって迷惑になるのではないかと悩んだ時期が続いたそう。中村もまた、期待に応えられなかったのが申し訳ないという思いに襲われていた。それまで頼っていた先輩もコーチもいなくなり、競技的にはレベルの低いクラブの中で、中村には唯一人そこに残されたような孤独感もあったに違いない。どうしていいのかわからない感じだったと、のちに同期の一人が語っている。インカレの後遺症を引きずったまま、中村は4年生としての忙しい日々を迎えていった。

新たにクラブを運営することになった3年生。それまで決してOL活動が活発だったとは言えない。1年生のときには指で数えられる程度しかレースもしていない。しかしその彼女達を自覚させたのは、まさにこの奈良女のおかれた環境そのものだった。下級生もコーチもいない中で、初めて彼女達はクラブのことを真剣に考えたという。その彼女達の1年間の努力と、彼女達がクラブの存亡をかけて取り組んだ新動活動の成果を受けて、奈良女は見違えるように蘇っていった。

元氣な1年生がたくさん入部した。3年生はタコの様大会にでまくった。後に個人戦で13位の好成績を収める後藤有里が、7月のショートインカレセレクションで落選する。競技的にはまだまだ下手だった。秋に入って1年生もよくがんばる。早々にAクラスも走った。奈良女では異例のことである。そんな1年生の面倒にも振り回されながら、クラブの活動はいつの間にか活気をきわめていた。

中村がそんな3年生の成長に気がついたのは秋のシーズンも終わりに近づきかけたころである。先に3年生にも離れて、トレーニングにも取り組んでいた同期の4年生も中村の励みとなった。特に黙々と走り続ける佐藤智香の姿は、中村にとって唯一の心の支えだったかもしれない。

12月に入り、2人の3年生（後藤・井上）が個人戦のセレクションを通過した。そして3人の4年生とこの2人の3年生が団体戦の候補メンバーとなる。本人たちもまったく意識しないまま、いつしか奈良女は入賞を狙えるほどのポジションを作り上げていたのである。



リレーメンバーの候補だった5人。左から、中村タリ子（2走）・後藤有里（1走）・井上洋子・佐藤智香（3走）・東真理子（96.2.11 奈良市民マラソン大会会場にて）

日光インカレ個人戦。中村・後藤・井上のエリートはそろって好成績だった。1年生も2つのメダル。こわいほどの好調。「運を使い果たしたんじゃないか」とミーティングで冗談を言えば、「私はまだ運を使ってもいいから」と佐藤。併設WAでははずした佐藤の強い言葉。団体戦のアンカーに起用されていた彼女に不安はなかった。本人の気持ちも周りの信頼も充実し、そしてなによりエース中村の心を支えた立役者として、団体戦は佐藤に最高の感激を用意していたのである。

1走・後藤8位。2走・中村は順位を4位に上げる快走。中村にとっては、4年目にして初めてまともな走れたリレーでもあった。静岡インカレで中村とともに深々飲んだ卒業生が応援に来ていた。中村のゴールを歓喜で迎え、すでに充実感に満ちた様子。たえ佐藤がどんなに順位を落とさなくても、みんな笑顔で迎えたことだろう。しかしその佐藤は、彼女たちの期待を凌駕する勢いで走り続けている。上位校に続いてアノウンズされ続ける奈良女。そして入賞杯最後の一つをしっかりと見つめる速報版の前。中村の目に奈良女のナンバーが映る。悲鳴にも近い歓声とともにゴールラインに駆けよる中村。佐藤を持つ顔は悪戯まっていた。

佐藤がゴールし、中村が泣いている。もちろん他の学生も、そしてOGも、秋から復活し当日観戦に来ていた橋本コーチも。辛かったこの数年、辛かった静岡インカレを乗り越えて、最後の最後に勝ち取った大金星。自分たちでつかみ取った栄光の、そして後輩たちに見せつけた感動の瞬間だった。

# 公認大会のクラス分けについて

京葉OLクラブ 広江 淳良

公認大会のクラス分けについては、これまでO-J A P A N誌上でも何度も議論されてきました。

(山岸倫也氏:'90/5,10月号、今村元氏:'90/6月号、松橋徳敏氏:'90/9月号、須山美千代氏:'94/9月号、小野盛光氏:'96/3月号 など。)

昨年4月から新しく「日本オリエンテーリング競技規則」が施行され、クラス分けや出場資格に関するルールも変わりました。ちょうど1年たち、折しも小野盛光氏の寄稿がありましたので、この機会に新競技規則のいくつかの特徴について考察してみたいと思います。

\*\*\*\*\*

## (1) 21E出場資格の年齢制限を事実上撤廃

その昔、村越真選手と高野(旧姓長田)由紀選手は、大学1年生で全日本チャンピオンになりました。それがいつの間にか規則がいじられて、21歳以上すなわち現役の大学4年生相当の年齢に達しなければ21Eに出場できないようになってしまいました。そのため鹿島田浩二や入江崇といった日本を代表して世界選手権に出場するような選手が、日本選手権には挑むことができないというような矛盾が生まれたりしました。

今回の規則改正では、ずっと若い選手でも実力さえあれば、21Eクラスに出場できるようになったのが最も大きな改善点です。卓越した選手であれば、高校生くらいでも全日本選手権出場が可能になります。

比較的熟した年齢時(20代後半?)にピークがくるオリエンテーリングの競技特性もあり、低年齢層の選手を保護するため、一応年齢下限(16歳以上)は設けてありますが、事実上の撤廃と捉えても支障ないと思います。

## (2) 2.1Eクラスのコース設定がよりタフに

M21Eは優勝設定タイムが90分になりました。以前の大会の優勝タイムから見ると随分厳しくなったように感じられますが、世界選手権を比べると決して長くはありません。むしろ日本人選手が世界選手権で戦うために、最低でも走り慣れてないといけない程度の距離だといえるでしょう。

同じことを10年前にやったら多くの選手が対応できなかったかもしれませんが、現在ではトップの選手層も厚くなり、十分に競技として成り立つレベルになってきたと思います。

ただし規則はそうであっても、実際の大会でそれが守られなければ意味がありません。トレインの制約などの

### <旧規則>

男性					
H21-E	21歳以上	H19-20A	17-20歳	H35B	35-39歳
H19-20E	有資格者	H17-18A	15-18歳	H21B	21-34歳
		H15-16A	13-16歳	H19-20B	19-20歳
H60-A	60歳以上	H13-14A	11-14歳	H17-18B	17-18歳
H55A	55-59歳	H70	70歳以上	H15-16B	15-16歳
H50A	50-54歳	H65	65-69歳	H13-14B	13-14歳
H45A	45-49歳	H60B	60-64歳	H11-12	11-12歳
H40A	40-44歳	H55B	55-59歳	H-10	10歳以下
H35A	35-39歳	H50B	50-54歳		
H21-A	21歳以上	H45B	45-49歳	H17-N	17歳以上
		H40B	40-44歳	H-16N	16歳以下
女性					
D21-E	21歳以上	D17-18A	15-18歳	D21B	21-34歳
D19-20E	19-20歳	D15-16A	13-16歳	D19-20B	19-20歳
				D17-18B	17-18歳
D50A	50歳以上	D65	65歳以上	D15-16B	15-16歳
D45A	45-49歳	D60	60-64歳	D13-14	13-14歳
D40A	40-44歳	D55	55-59歳	D11-12	11-12歳
D35A	35-39歳	D50B	50-54歳	D-10	10歳以下
D21-A	21歳以上	D45B	45-49歳		
		D40B	40-44歳	D17-N	16歳以上
D19-20A	17-20歳	D35B	35-39歳	D-16N	15歳以下

年齢はその年4月1日現在の年齢とする。  
H21-E, D21-E, H19-20E, D19-20E, H21-Aは出場資格を設ける。

### <新規則>

男性					
M21E	有資格者	M20A	17-20歳	M35B	35-39歳
M20E	有資格者	M18A	15-18歳	M21B	21-34歳
		M16A	13-16歳	M20B	17-20歳
M60A	60歳以上			M18B	15-18歳
M55A	55歳以上	M70	70歳以上	M16B	13-16歳
M50A	50歳以上	M65	65-69歳	M14	11-14歳
M45A	45歳以上	M60B	60-64歳	M12	11-12歳
M40A	40歳以上	M55B	55-59歳	M10	10歳以下
M35A	35歳以上	M50B	50-54歳		
M21A	21歳以上	M45B	45-49歳	M16N	16歳以上
M21AS	21歳以上	M40B	40-44歳	M15N	15歳以下
女性					
W21E	有資格者	W18A	15-18歳	W21B	21-34歳
W20E	有資格者	W16A	13-16歳	W20B	17-20歳
				W18B	15-18歳
W50A	50歳以上	W65	65歳以上	W16B	13-16歳
W45A	45歳以上	W60	60-64歳	W14	11-14歳
W40A	40歳以上	W55	55-59歳	W12	11-12歳
W35A	35歳以上	W50B	50-54歳	W10	10歳以下
W21A	21歳以上	W45B	45-49歳		
W21AS	21歳以上	W40B	40-44歳	W16N	16歳以上
W20A	17-20歳	W35B	35-39歳	W15N	15歳以下

年齢はその年4月1日以降の年度内に達する年齢とする。  
M/W20Eクラスについては、全日本大会のみ開設する。

ために、それだけの距離を確保するのが難しいケースもあるかと思いますが、主催者サイドのご理解とご協力をお願いしたいと思います。



〈優勝設定タイム（競技規則 11.3項）〉

M21E	90分	W21E	75分
M20E	70分	W20E	60分
M21A	80分	W21A	65分
M21AS	60分	W21AS	50分
M20A	70分	W20A	60分

〈全日本と世界選手権のタイムの比較〉

	全日本 H(M)21E	世界選手権 男子クラシック
	優勝タイム	日本人選手 最高タイム
1989年度	1:31:46	2:07:16
1990年度	1:08:36	—
1991年度	1:02:21	2:23:15
1992年度	1:06:18	—
1993年度	1:08:51	1:55:47
1994年度	1:33:13	—
1995年度	1:32:53	(*) 1:10:15

(\*) は予選のタイム。決勝に進んでいたとしたら少なくとも50%増しになると推測される。

(3) M21ASの意義について

M21Aというのは、最も参加者数の多いクラスです。

旧規則ではH21Aには公認大会規定内という参加資格が設けられていましたが、これは膨らみ続けるH21Aのエントリー数を制限するための措置でした。今回はEクラス以外は、資格制限を撤廃しました。そもそもEクラス以外でH21Aだけに出場資格規定があるというのが異質であり、これを廃止すること自体は至極もつともな措置であるわけですが、そのために人数を絞る別の措置を講ずる必要が出てきます。それはH21Aのコースを厳しくすることです。

前述のようにM21Eのコースは従来より厳しくなります。M21AはそのM21Eの予備群ですから、それ相応の厳しさが求められます。規則では優勝設定タイム80分ですが、それも一昨年までの実績より長くなっています。

先の全日本大会では標準的で非常に望ましいコース設定がされ、M21Aの優勝タイムは80分前後でした。そのコースで50%増すなわち2時間以内でゴールできない選手は、このクラスで「十分に戦える力」はないと判断すべきだと思います。実際、昨年度の公認大会の成績表を眺めると、トップの50%増のタイムに収まらない選手が相当数います。ですから、これに次ぐレベルのクラスが必要となるわけです。

それはM21Bでいいのではないかとすると、M21Bもまた人数が多く、これ以上人数が増えればクラスを

分割する必要が出てくるでしょう。それならば、無作為に分けるよりも、技術レベルによって選手自身の選択によって分割の方がスマートではないでしょうか。

〈公認大会のエントリー数〉

('95はMクラス)	'92	'93年度			'94年度			'95年度		
	全日本	東日本	西日本	全日本	東日本	西日本	全日本	東日本	西日本	全日本
H21E	48	33	42	64	79	69	54	57	46	49
H21A1	106	102	133	132	96	100	118	94	91	148
H21A2	105			130	95		117	93	91	148
H21AS								29	43	126
H21B	104	58	88	154	113	57	155	18	18	11

ただ上表のように、昨年一年のエントリー状況を見てみると、M21Aの選手がM21ASにシフトするのではなく、M21BからM21ASにシフトする傾向が強かったようです。規則の主旨にそったコース設定が定着して、うまく参加者がバランスされるようになるとよいのですが。

(4) 落ちやすい21Eと上がりやすい21A

エリート出場資格に関して、推薦出場が厳しく審査されるようになりました。内規によると、「1. レース中に事故に遭った他の選手を救助するため止むを得ず棄権した場合。2. 海外赴任または留学によって国内のレースに出場できなかった場合。3. 出産のためにレースに出場できなくなった場合。」のいずれか、またはそれに準ずる理由に該当すると求められる場合のみ個別に審査するが、それ以外は原則として認めないことになっています。つまり、ただ大会に出なかったとか失敗したというのは、ダメということです。

昨年数件の選手推薦があったようですが、OKとなったのは、マレーシアに赴任していた石井龍男選手とノルウェーに留学していた丸山哲史選手の2名だけでした。

このように推薦出場が厳しくなると、須山美千代氏が主張するように(O-JAPAN'94年9月号)、ますます21Eの資格を維持するのが困難になります。21Aから21Eへあがる方が、21Eをキープし続けることよりも容易だというのは事実だと思います。

これには、選手の入替わりを活性化させることによって、競技レベルを上げていこうという狙いがあります。競争の原理が働かないところに競技レベルの向上は望むべくもありません。頑張って上を目指す者には門が広いが、地位に満足するとすぐに落ちてしまうような仕組みにしているのです。

いくら21Aから上がる方が容易だとは言っても、21Eから落ちやすくなれば、それだけ21A上位の争いは

[20ページへ続く]

オリエンテーリング・クロスカンントリー・森林/高原マラソンの情報満載!

# オリエンテーリング・カレンダー

1996年6月~11月

月	日	大会/講習会名 (主催者) 形式	集合場所・交通機関 (受付時間)	(地図) 等高線間隔 縮尺 通行可能度	参加料 ( )=17才以下。#=Gの1人あたり
6	2 (日)	☆第18回 東京大学オリエンテーリング大会 (東京大学オリエンテーリングクラブ) ①	裾野市立「富岡第一小学校」: JR御殿場線「岩波」駅より徒歩約45分。または「裾野」駅よりバス15分。「御宿」停留所下車すぐ、ほか。	1: 15000 5m 3段階	個人=エイト 2000円 (1200円), A・B・N771800円 (1000円), F771800円。当日 1900円 (1100円) G=#500円 (同額)
	16 (日)	1996年度関西学生オリエンテーリング連盟 第2回定例戦 (関西学生オリエンテーリング連盟) ②	「美和山荘」: 阪急宝塚線「池田」駅。③番バス乗り場より阪急バス「妙見山上」牧「関西カンントリー」希望ヶ丘四丁目行きで所要約35分。「北摂信愛園前」下車。徒歩5分。(9:00~11:00)	1: 15000 5m 3段階	個人=1100円 (800円) 当日 1200円 (1000円) 学生・評議員 900円 当日 1000円 G= 1000円
7	28 (日)	☆第19回 オリエンテーリング北大大会 (北海道大学オリエンテーリング部) ③	苫小牧市立「清水」小学校: JR「苫小牧」駅から徒歩約25分。(当日 9:00~10:30)	1: 15000 5m 3段階	個人=1600円 (300円) 当日 1900円 (500円) G= #300円 当日 #500円
8	3 (土)	KOLA ナイトOL大会 (岸和田オリエンテーリング協会) ④	大泉緑地公園の正面入口付近: 地下鉄 御堂筋線「新金岡」駅から約800m。☎=駐車場あり。有料=終日 600円。(19:00~19:30)	「大泉緑地」 (朝OL参加)	500円 (700円)
	4 (日)	第16回コンターズ練習会=修・紀子還暦記念 (コンターズ) =兵庫県立「甲山森林公園」			
	24~26 (土~日)	第8回 練馬OLC スマートトレーニングキャンプ (練馬オリエンテーリングクラブ) =静岡県富士宮/富士市周辺			
	24 (土)	☆第18回 長野県オリエンテーリング大会 (長野県オリエンテーリング協会, R. M. O. サービス) ⑤	高森町宮「山の寺キャンプ場」: JR飯田線「下平」駅下車, 5km。☎=中央自動車道「松川」ICより7km, 50台駐車可能。(トバスタート 12:00予定)	1: 15000 5m 3段階	個人=2000円 G= #200円
25 (日)	☆第4回 6人リレーOLクラブカップ (長野県オリエンテーリング協会, R. M. O. サービス) ⑥	(7:30~ スタート 8:00予定)		6人リレーOLクラブカップ 9000円/チーム ベテランクラブカップ 4500円/チーム	
9	29 (日)	☆第21回 ベアOL大会 (東京オリエンテーリングクラブ) =東京近郊			
10	13 (日)	☆第2回 神戸大学OLK大会 (神戸大学OLK) ⑦	兵庫県加美町「杉原谷小学校」:	1: 15000 5m 3段階	1800円 (900円) 当日 2000円 (1000円)
	20 (日)	☆第19回 筑波大学オリエンテーリング大会 (筑波大学オリエンテーリング愛好会) ⑧	茨城県高萩市「大心苑」: JR常磐線「高萩」駅下車, バス15分。☎=常磐自動車道「高萩」ICより10分。1台500円で駐車券発行, 要申込み。(当日 8:00~10:30)	1: 15000 5m 3段階	個人=E771800円 (3000円) SEL・A・B771800円 (2000円) N771800円 (1700円) G= 2000円 (1700円)
	26 (日)	☆平成8年度 第17回 岩手大学オリエンテーリング大会 (岩手大学オリエンテーリング部) ⑨	盛岡市立「手代森小学校」(予定): 盛岡バスセンターからバスまたはJR「岩手飯岡」駅からタクシー。(当日 9:00~11:00)	1: 15000 5m 3段階	個人=1800円 (500円) 当日 2000円 (500円) G= #300円 当日 #500円
11	3 (日)	☆第4回ショートインカレ 兼 第19回長野県オリエンテーリング大会 (日本学生オリエンテーリング連盟, 長野県オリエンテーリング協会) =長野県			
	4 (振替)	☆菅平高原リレーオリエンテーリング大会 (長野県オリエンテーリング協会2) =長野県			
	10 (日)	★☆京葉OLクラブ創立20周年記念大会 (京葉オリエンテーリングクラブ, 千葉県オリエンテーリング協会) =千葉県君津市			

◆ 全般注意: ①定額小為替または郵便為替の指定受取人欄は記入しないこと。 ②返信用の封筒またはハガキの表面には返信先の郵便番号, 住所, 氏名を明記

## ORIENTEERING CALENDAR (OVERSEAS)

1996. 6/29-30	Transvaal Champs.	Pretoria	RSA	5/03-04	◇World Cup Event Ev. 5, 6C/R	Oslo	NOR
29-7/01	Colorado 7-day 7I	Lake George	USA	03-10	Swiss O-week 6I	Luzern	SUI
7/05-07	Wawel Cup 3C	Ogrodzieniec	POL	04-10	Croeso '96 Welsh 6-Days 6C	mid-Wales	GBR
08-14	◇Junior World Champs.	Vilcea, Arges	ROM	06-10	Jicin 5-days 5I	Jicin	CZE
08-13	International 5-Tage OL 5I	Wiener Neustadt	AUT	10-14	North American Orienteering Fest.		CAN
09-15	Sorlandsgaloppen 6C	Kristiansand	NOR	17-25	N. American Round-up		USA
15-20	FIN 5 O-week 5C	Kouvola	FIN	16-18	3-Dagse van Vlaanderen		BEL
16-21	Student World O-Championships	Veszprem	HUN	17	◇World Cup Event Ev. 7 R	Langnau	SUI
19-21	Jysk 3-Days 3C	Silkeborg	DEN	19	◇World Cup Event Ev. 8 S	Langnau	SUI
22-26	O-Ringen 1996 5C	Karlstad	SWE	21	◇World Cup Event Ev. 9 C	Leuk	SUI
30	◇World Cup Event Ev. 4 S	Göteborg	SWE	24	◇World Cup Event Ev. 10 C	Villard-de-Lans	FRA
8/02-05	Veterans Russia Cup '96	Chelyalinsk	RUS	23-25	Grand Prix Polonia	Klodzko	POL
				31-9/01	2nd World Rogaining Championships	Western Australia	AUS

6月の トレーニング・カレンダー	1 (出)	2 (回)	3 (月)	4 (火)	5 (水)	6 (木)	7 (金)	8 (土)	9 (日)	10 (月)	11 (火)	12 (水)	13 (木)
トレーニング・メモ (メニューなど) 例: ランニング○○km・□□分 L. S. D (♯(り走))○○km・□□分 インターバル □□分 休養=ストレッチのみ 完全休養 大会参加(記録) 大会運営 マッピング=フィールドワーク ○○時間など													
(見え書きしておく)													
血 圧													
心 拍													
体 重													

注) ★=J O A公認大会  
☆=O-JAPAN後援大会

略語説明

大会名欄の  
①ポイントOL  
②スコアOL  
③リレー種目

参加料欄ほかの  
G=グループ  
または  
トリム

OJ様式=O-JAPAN 様式  
○=使用してもよい  
×=使用不可

備考欄の  
S指=スタート時刻事前指定  
MM=マスターマップ

クラス分け (M/D=男子, W/D=女子, A=経験者, B=経験中位, N=初心者)	申込方法	様式	申込み問合せ先 (IQ)	申込締切	備考
個人=ME, WE, M60A, M50A, M43A, M35A, M21A, M21AS, M20A, M18A, M15A, M35B, M21B, M20B, MN, MF, W50A, W35A, W21A, W21AS, W20A, WB, WN, WF の16クラス, GA, GB の2クラス。	I. 郵便局で参加料を払い込む。その際払込通知票通信欄に参加申込者の氏名・希望クラスを記入。 II. I.の手続き後、要項の申込み用紙と返信用封筒(定形最大、切手不要)を同封して郵送。	×	〒182 東京都調布市菊野台2-37-5 小喜多 智彰 ? =後藤 士郎 TEL/FAX. 03-3819-1051 払込み先=口座No. 00110-5-251351 加入者名=東京大学OLK	一般 4月 30日 消印	◆大会案内 一部地域 本誌 96/3 に繰込み済
個人=MA, MAS, WA, MB, WB, N の6クラス, G= 1クラス。	①所定の参加申込書(Gクラスの場合クラス欄に人数も記入) ②参加料相当の定額小為替 ③返信用封筒(定形最大、宛名明記, 90円切手貼付)の3点を同封して申し込む。		〒557 大阪市西成区北津守 3-2-8 中尾 悟 TEL. 06-562-1250 ? =渡辺 瑞貴(むらたみ ずき) TEL/FAX. 06-863-8914	5月 17日 必着	
個人=M21A, M35A, M20A, MB, W21A, W35A, W20A, WB, N の9クラス, G= 1クラス。	I. 要項の申込み用紙と返信用封筒(長形3号, 80円切手貼付)を同封して郵送。 II. 参加料は郵便振替で払い込む。		〒005 札幌市南区石山1条1丁目4-10 浦島 理 ? =坂井 洋平 TEL. 011-746-9220 TEL 吉田 浩 TEL. 011-704-7945 払込み先=口座No. 02790-6-24368 加入者名=北海道大学オリエンティング部	7月 6日 消印	◆大会案内 本誌 96/5 に繰込み
個人=MA, MB, WA, WB の4クラス。	参加料を郵便振替で払い込みください。その際、払込票の通信欄に参加者の氏名・TEL・参加クラスを記入してください。		? =前田 春正 TEL/FAX. 0722-55-8764 (20:00~) 村橋 和彦 TEL. 0723-35-5988 (~22:00) 払込み先=口座No. 00970-7-14158 加入者名=岸和田オリエンティング協会	7月 26日	
			? =辻村 修 TEL 06-831-2368 (20:00~22:00)		
			? =新垣 和信(あざね わかつむ) TEL 03-3922-5367 (21:00~23:00)		
個人=ME, M21A, M21AS, M45A, MB, MN, WE, W21A, W45A, WB, WN の11クラス, 1クラス。	①必要事項を記入した所定の参加申込書 ②参加料相当の定額小為替 ③90円切手を貼付した定形最大封筒(120mm×235mm=長形3号)を同封して申し込む。	×	〒276 千葉県八千代市村上団地 1-12-103 山川 克則 TEL/FAX. 0474-86-5162 E-mail BXJ03321@niftyserve.or.jp ? =鳥川 秀司 TEL/FAX. 0265-22-6372 元木 悟 TEL 0263-28-5127	7月 24日 消印	◆大会案内 本誌 96/5 に繰込み
			? =斎藤 英津子 TEL 03-3929-1715		◆大会案内本誌 96/6に繰込み予定
個人=ME, M21A, M40A, MAS, MB, WE, W21A, W40A, WB, N の10クラス, G= 1クラス。			? =田壺 隆行 TEL 078-801-2125 田尾 順一 TEL 06-903-8182	9月 上旬 予定	◆大会案内 本誌 96/7 に繰込み 予定
個人=ME, M-SEL, M50A, M50A, M40A, M35A, M21A, M21AS, M20A, M18A, M40B, M35B, M21B, M18B, WE, W35A, W21A, W20A, W18A, W35B, W21B, W18B, N の23クラス, G= 1クラス。	I. 郵便局で参加料を払い込む。その際払込通知票通信欄に参加申込者の氏名・希望クラスを記入。 II. I.の手続き後、要項の申込み用紙と返信用封筒(定形最大、切手不要)を同封して郵送。	×	〒305 茨城県つくば市天久保 3-16-21 ちから荘 5-7 松田 貴彦 TEL/FAX. 0298-52-6932 (20:00~23:00) E-mail matsud40@shako.sk.tsukuba.ac.jp	8月1日 ~ 9月10日	◆大会案内 本誌 96/7 に繰込み 予定
個人=MAL, MAS, MB, WAL, WAS, WB, N の7クラス, G= 1クラス。	①必要事項を記入した要項の参加申込書 ②参加料相当の定額小為替 ③90円切手を貼付した定形最大封筒(120mm×235mm=長形3号)を同封して申し込む。		〒020 岩手県盛岡市上田3丁目 13-28-106 宮川 健(みやが けん) TEL 0196-53-0346	8月 5日 消印	◆大会案内 本誌 96/6 に繰込み 予定
			? =木村 佳司 携帯TEL 030-333-0893 (19:00~22:00) E-mail SLH34088@pcvan.or.jp 元木 悟 TEL 0263-28-5127		◆大会案内 本誌 96/7に繰込み予定
			? =山川 克則 TEL/FAX. 0474-86-5162 TEL 田中 徹 TEL 043-251-4659 (TEL 21:00~22:00)		◆大会案内 本誌 96/7に繰込み予定

すること。 ③郵便振替の場合、振替手数料は払い込み人が負担すること。

9/28-29 South African Championships Johannesburg RSA 28-29 3rd National Event C/S Pontarlier FRA 10/05-06 Australian Championships AUS 1/ ◇Ski-O World Cup Event Ev. 1, 2 SWE 2/ ◇Ski-O World Cup Event Ev. 3, 4 CZE 8/09-17 ◇World Orienteering Champs. Grimstad NOR 3/3rd wk. ◇Junior World Champs. Leopoldsdorf BEL 9/29-10/04 ◇Veteran World Cup Minnesota USA	④ ◇=I O F Event I =個人レース G =クラス別レース S =ショート・ディスタンス L =ロング・ディスタンス R =リレー 競技 数字は複数日大会日数を表す。	■国際オリエンテリング連盟=(IOF) 加盟国一覧 1996.1 現在 計46か国 含・準加盟国=* AUS オーストラリア CRO クロアチア GER ドイツ KAZ カザフスタン NOR ノルウェー ESP スペイン AUT オーストリア CUB キューバ GBR イギリス KOR 韓国 POL ポーランド SWE スウェーデン BEL ベルギー CZE チェコ HKG 香港 LAT ラトビア POR ポルトガル SUI スイス BLR ベラルーシ DEN デンマーク HUN ハンガリー LTU リトニア ROM ルーマニア UKR ウクライナ BRA ブラジル * ECU エクアドル * IRL アイランド MAS マレーシア * RUS ロシア USA アメリカ BUL ブルガリア EST エストニア ISR イスラエル MKD マケドニア * SVK スロバキア YUG ユーゴスラビア CAN カナダ FIN フィンランド ITA イタリア NED オランダ SLO スロベニア CHN 中国 FRA フランス JPN 日本 NZL ニュージーランド RSA 南アフリカ
---	---	--

14 (金)	15 (土)	16 (日)	17 (月)	18 (火)	19 (水)	20 (木)	21 (金)	22 (土)	23 (日)	24 (月)	25 (火)	26 (水)	27 (木)	28 (金)	29 (土)	30 (日)	備考

【17歳まで】

シビアなものになってくるはずですが、先の全日本でも世界選手権代表の加賀屋博文選手など多くのエリート常連が21Aを走るといふ珍事がありました。これが珍事ではなくなってくるかもしれません。

(5) 中学・高校生のクラス

20歳以下のクラスについては、学年とマッピングさせて見ていただきたいと思います。

クラス	年齢	学年
M(W) 20A, 20B	17-20歳	高校2年~大学2年
M(W) 18A, 18B	15-18歳	中学3年~高校3年
M(W) 16A, 16B	13-16歳	中学1年~高校1年
M(W) 14	11-14歳	小学5年~中学2年
M(W) 12	11-12歳	小学5年~小学6年
M(W) 10	10歳以下	~小学4年
M(W) 16N	16歳以上	高校1年~
M(W) 15N	15歳以下	~中学3年

小野氏のBクラスの統合や15Nクラスの廃止などの提案は、どれも一理あるとうなづける意見だと思えます。こういう議論が生まれる背景には、この年齢層の選手の数がとにかく少ないという事情があります。

少ない人数をさらに細分すると、競う楽しみが薄れてしまうといった声がある一方で、クラスの数を多くすることによって、初心者に対して表彰機会を増やすことは望ましいという意見もあります。

競技規則 6.1.3項には「参加者が少ないと予想されるクラスについては、年齢の隣接する複数のクラスを統合

することができる。また参加申込者が少ないクラスについても、これに準ずることができる。」とあります。

つまり、主催者・主管者およびコントローラーにある程度の裁量を委ねられていると解釈すれば、小野氏が提案するB案に近いクラス分けを採用することが、この規則の中で可能だということになります。

なお、Nクラスを15歳以下と16歳以上で分けてあるのは、中学生と高校生の切れ目になるというのが根拠になっています。

\*\*\*\*\*

おわりに

平成2年3月の全日本大会(石川県)で、私は金沢OLCのクラブ員として、大会運営をお手伝いさせていただきました。この大会で、当時まだ大学1年生でエリート資格のない鹿島田浩二選手がH21Eにオープン参加することを認めたことについて、O-Japan誌上('90.4~7月号)で激しい議論がなされたのを覚えている方もいらっしゃると思います。

そのとき私は「改革を望むならば、それを実践するのは我々オリエンティア自身である。」と述べました。

JOAはなかなか腰の重い組織で、ずいぶん時間はかかってしまいましたが、今回の規則改正は、その当時ただの一オリエンティアであった私なりの答えです。

一緒にご尽力くださった森田輝雄氏、O-JAPAN誌上で私を励ましてくださった田口肇氏・桐田幸宏氏には、心から感謝申し上げます。

＝ 編集部日誌 ＝

◆4月1日~30日 自治会長としての新年度がスタート。4月号を月末近くになって完成させた以外は、オリエンタリングとの関わりはほとんど持てない1か月であった。その中で、下旬であったらうか、IOFから'Press Release'として、お知らせをいただいた。この9月から事務局長が交代するということである。約10年間にわたる現レンナルト・レヴィン氏の大きな業績の後を受けて、Barbro Rönberg氏(フィンランド)＝読み方判らず、フィンランド航空でも聞けばよいが、暇がないので欧文文字のままご紹介＝が就任することになった。ちょうど10年前の1月、現IOF会長のスー・ハーヴェイ女史とともに日本を訪れた。その前、正月に行われたAPOC86-香港のプレレースのコースで、位置確認を話しかけてきたのが、彼であった。奈良の国際大会へ行く途中、横浜の拙宅へも立ち寄ってくれた。そして、昨秋の来日である。スキーOをオリ

ピック種目へと、一生懸命だが、その思いが2度目の日本訪問となったようである。事務局長として最後のIOF総会が、7月にエルサレム(イスラエル)で開かれ、参加するよう熱心に誘ってくれる。残念ながら、去年のカナダ行きでO-JAPAN読者の皆様に大変な迷惑をおかけした二の舞になりそうなので、諦めている。多分、もうお会いする機会はないだろう。そう、少なくとも今年は、オリエンタリングを離れて地域へ戻らなければならない。未練を捨てて、それに全力投球しよう。4月は自治会の総会に始まり(実は4月1日にO-JAPANのために1日休んだのだが、早速その日に会員の訃報があったり、昨夜の強風で公園の案内板＝住居案内地図が壊れたり大変)、近隣自治会との打ち合わせや役所・学校などへの挨拶回り、会社勤務を休んだりして何とか済ませる。おかげで那須の分室へは正月以来行っていない。少し休みたいのが現在の心境です。

—<流人>—

O-JAPAN 発行人/田口 昭子	: 購読料	: 編集責任者/田口 肇
〒234 横浜市港南区日野南7-9-5	: '96. 4月 ~ '97. 3月	: Chief Editor:
TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500	: (高校生以下)	: Hajime Taguchi
分室=Annex TEL. 0287-77-1977	: (クラブ購読=年間)	: Editorial Address:
NIFTY-Serve ID VYE01053	1部あたり頒布価格	: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
郵便振替口座:(番号)00270-9-46870 (加入者名)O-JAPAN編集部		: Yokohama, 233 Japan
銀行口座:さくら銀行・港南台支店(普通預金)番号・5380802 O-JAPAN編集部 代表者・田口 肇		: E-mail Address: hataguc@ibm.net